

「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」の策定に伴うパブリックコメント実施結果と主な変更について

1 概要

新百合ヶ丘駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、適切な土地利用や賑わいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」（案）を取りまとめ、パブリックコメント手続きを実施し、市民の皆様からの御意見を募集しました。

その結果、259通(意見件数732件)の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題名	「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」（案）に関する意見募集について
意見の募集期間	令和6年12月2日（月）～令和7年1月8日（水）
意見の提出方法	郵送、持参、FAX、電子メール等
意見募集の周知方法	・市政だより（令和6年12月1日号掲載） ・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、まちづくり局市街地整備部地域整備推進課） ・イベント会場での出展（備えるフェスタ（令和6年12月7日）、しんゆりフェスティバルマルシェ（令和6年12月21日）） ・新百合ヶ丘駅周辺の町内会の回覧板
意見の公表方法	・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、まちづくり局市街地整備部地域整備推進課）

3 意見募集の結果

意見提出数（意見件数）		259通（732件）
内 訳	郵送	6通（13件）
	持参	7通（12件）
	FAX	4通（16件）
	電子メール	104通（319件）
	その他（イベント会場等）	138通（372件）

4 御意見の内容と対応

(1)実施結果

ア 実施期間:令和6年12月2日(月)～令和7年1月8日(水)

イ 意見総数:259通 732件

ウ 意見の対応区分:

項目	A	B	C	D	E	計
1 まちづくり方針全般について	0	72	5	11	0	88
2 土地利用について	2	172	11	23	0	208
3 交通体系について	0	173	0	19	0	192
4 都市環境について	0	46	10	18	0	74
5 都市防災について	0	10	5	0	0	15
6 公共施設について	1	32	0	32	0	65
7 横浜市高速鉄道3号線について	0	41	0	4	0	45
8 その他	0	0	0	0	45	45
合 計	3	546	31	107	45	732

【対応区分】A:意見を踏まえ、反映したもの B:意見の趣旨が案に沿ったもの C:今後の参考とするもの

D:質問・要望で、案の内容を説明するもの E:その他

(2)主な意見と本市の対応

ア 主な意見

まちづくり方針全般について賛同する意見や、本方針に基づく取組の推進を求める意見などが寄せられました。

イ 本市の対応

「まちづくりの方針図」等に関する意見が寄せられたことを踏まえ、方針図の一部見直しや、地域活動等の事例を加筆するとともに、麻生区区民アンケート結果の掲載等の必要な時点修正を行った上で、「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」を策定します。

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	まちづくり方針案に基づいて、計画的にまちづくりを進めてほしい。今後の取組に期待している。 (他同趣旨 3 3 件)	本まちづくり方針をもとに、引き続き、様々な機会を捉え、市民の皆様の御意見を伺いながら、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現に向けたまちづくりを進めていきます。	B
2	まちづくりを進めるにあたって、市民意見を聞きながら進めてほしい。また地域住民と行政がしっかり連携し、気軽に意見を交換できる場がほしい。 (他同趣旨 6 件)	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、ワークショップや駅周辺の各種イベントなどの様々な機会を活用し、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
3	新百合ヶ丘駅周辺の開発に期待している。新しいまちをつくってほしい。 (他同趣旨 5 件)	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 現在、具体的な計画等は決まっていますが、引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
4	低層住宅に住んでいるお年寄りは、このまちづくりでどこかに追いやられはしないか。常に弱い立場の市民を念頭に置いて計画を進めていただきたい。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 現在、具体的な計画等は決まっていますが、引き続き、本まちづくり方針をもとに、多様な人々が集積・交流・居住するまちをめざし、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
5	現状のまちの課題点もよく把握されており、納得のいく方針案である。 (他同趣旨 3 件)	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところでは、引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
6	魅力あるまち、継続してにぎわいがあるまちにするために、まちを抜本的に見直すタイミングである。 (他同趣旨 1 件)		B
7	まちづくりの方向性については、現状を十分に検証したうえでの内容であり納得感がある。特に「交通環境の改善」「ウォークアブル」「芸術・文化」「緑」というキーワードについては新百合ヶ丘の重大な課題、あるいは重要なコンテンツであり、方向性に則ったまちづくりの確実かつ迅速に推進することを強く希望する。		B
8	今回の方針に基づきまちづくりが推進されることで、他の郊外都市と比較してもより魅力的なまちになってほしい。		B
9	今後より具体的にまちづくりを検討されるにあたっては、まちの課題の解決だけでなく、今後50年100年新百合ヶ丘が「世界中の郊外型まちづくりのトップランナー」でいられるような夢のある計画としてほしい。よくある郊外型ベッドタウンの延長線上ではなく、他のまちづくりとは一線を画した次世代型のまちづくりを心掛けていただきたい。そのためにも、決して目先の損益やマーケットにとらわれることなく、高付加価値型のまちづくりをめざすべきだと考える。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところでは、いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて、参考とさせていただきます。	C

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
10	3号線は期待しているが、ストロー効果で都市が衰退しないようにしてもらいたい。	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。 また、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を最大限活かしながら、個性と魅力に溢れた市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりをめざしていきます。	B
11	地下鉄延伸の期待と共に、新百合ヶ丘駅周辺のポテンシャルは非常に大きいと感じている。		B
12	地下鉄3号線の延伸と併せ、交通結節点としての機能を強化しつつ、商業等による賑わいや、新百合ヶ丘ならではの文化を活かした駅前になっていくと、より良いまちになると思う。		B
13	本方針策定後は「戦略的誘導エリアにおける基本的考え方」を取りまとめ、設計、工事と進めていくのか。	本まちづくり方針の策定後、駅北側の戦略的誘導エリアでは、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、土地利用転換の機会を適切に捉えて、区役所等の公共施設も含めた検討を行い、今後の取組の方向性を示す「基本的考え方」の令和7年度中の策定をめざすこととしています。「基本的考え方」の策定後の取組内容については、同考え方の策定の中で今後検討していきます。	D
14	鉄道事業者と連携を図り、効果的かつ魅力的なまちづくりに期待している。 (他同趣旨1件)	本市では、誰もが暮らしやすい、持続可能なまちづくりの実現に向けて、鉄道事業者と包括連携協定を締結していきます。今後も引き続き、協定に基づき、事業者が持つノウハウや強みなどを生かし、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりにおいても連携・協力して推進していきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
15	新百合ヶ丘駅の駅前のつくりが物足りない。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ。	B
16	新百合ヶ丘のこれまでのまちづくりを活かして、これから考えたまちづくり方針となっていると思う。しんゆりが魅力となる芸術と里山を活かしながら、駅前が充実される街づくりとなつてほしい。	駅中心部については、まちの将来像に掲げる、新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を踏まえた都市機能の充実や、官民連携した緑やオープンスペース等の創出により、魅力ある空間の検討を進めていきます。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
17	今後、駅を中心に高齢化の進行が想定されるとのことだが、そうした予測をただ甘受するのではなく、受け身の少子高齢化対策にとどまることなく、有望な次世代を呼び込むまちづくりを方針の骨子に据えて欲しい。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ。 まちの将来像として掲げた「駅周辺の交通環境の改善及び交通結節機能の強化等」、「多様な都市機能の拡充とにぎわいの創出」、「新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）の継承と進化」による「多様な人々が集うまち」の実現に向けて、引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
18	歩行者ネットワークに面した建物所有者に対し、公共的配慮を反映された計画に対しては何らかのインセンティブを与えることも考慮すべきではないか。	一定規模以上の敷地に一定割合の公開空地（オープンスペース）を確保することで、市街地の環境の整備改善がなされる場合に、容積率を緩和する総合設計制度や、公共的通路を整備するなどの住環境の改善に資する優良建築物等の整備事業に対する補助制度などの各種制度を活用しながら、誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備を進めていきます。	B
19	大きな開発は期待していない。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ です。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。 なお、具体的な開発計画等は決まっておりますませんが、駅至近の土地利用計画等に当たっては、地権者等と意見交換等を行いながら、適切な土地利用を誘導していきます。	D
20	事例集が入っていることで、参考になりとてもよかった。 事例集には掲載がないが、2024年9月に開業した「グラングリーン大阪」が、芝生で寝そべる人々も多くまるで外国の公園みたいだと世間で話題になっている。「ナイトタイムエコノミー」が謳われて久しいが、昼間だけではなく、夜の新百合ヶ丘の絵姿もビジョンを描いていただけるとよりよいかと感じた。	新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの検討の深度化に向けて、特色あるまちづくりの事例や、先駆的な取組を集め、「まちの事例集」として、取りまとめました。 この「まちの事例集」は、地域の方々等とのまちづくりについての意見交換や検討の深度化を図るためのコミュニケーションツールとしても活用していきます。引き続き、人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりに向けて、いただいた御意見等を参考に他都市の事例等の研究を行いながら、検討の深度化を図っていきます。	C

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
21	南口エリアの活性化案及び改善点として、南口にイオン、OPA、エルミロード、アコルデがあるが、それぞれ場所移動が面倒なのでビルを統合してほしい。 新百合ヶ丘駅に駅ビルを作ってほしい。駅が地下にあるのに地上が活用されてないのが勿体無い。南口バスターミナル中央の大きな木はなくして、大阪駅前のような広場にしたい方がよい。	本まちづくり方針をもとに計画的にまちづくりを進めるにあたっては、まちづくりを牽引する土地利用の誘導を図るべきエリアとして駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」や「大規模な商業施設等の敷地」等を中心に戦略的誘導エリアに指定し、当該エリアを中心とした効率的・効果的なまちづくりを検討します。 駅南側の戦略的誘導エリアの土地利用誘導に向けた検討については、横浜市高速鉄道3号線延伸の進捗状況を踏まえながら、進めていきます。	B
22	駅周辺の商業施設はすでに十分ではないか。小田急SCの3Fヨーカドー跡フロアが空きのみであり、店舗の需要はそれほど高くない。	まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現に向けて、駅中心部の高度利用などにより商業、業務、都市型住宅等の多様な都市機能が集積したコンパクトで効率的なまちをめざし、新百合ヶ丘の魅力を最大限に活かして、個性と魅力にあふれた機能の充実を図っていきます。	D
23	どのように再開発を進めていくのかを知りたい。	本方針策定後の進め方については、戦略的誘導エリアのうち、駅北側について交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、先行的に検討を進めることとしていきます。 検討にあたっては、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、土地利用転換の機会を適切に捉えて、区役所等の公共施設も含めた検討を進め、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざしていきます。 なお、再開発等の具体的な計画は決まっておりませんが、戦略的誘導エリアを中心とした駅至近の土地利用計画等にあたっては、地権者等と意見交換等を行いながら、適切な土地利用を誘導していきます。	D

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
24	まちの将来像の「多様な人々が集うまち」は、今回のメイン開発を的確に表現しているとは思えない。基本の条項に使用されている「環境や都市機能」を強調した文言の方が、より明確だと考える。 今まで大切にしてきた伝統や文化風習に対し、新しいけど正当性があるのか不明な考えを周回遅れで押し付けられているようである。まちづくり基本的な考え方の優先順位は、1：交通2：都市機能3：魅力と思う。分野別基本方針は横並びではなくて、1：都市防災 2：都市機能の充実するための土地・交通整備、3：環境ではないか。 マンション建設やインバウンド、多様など既知の言葉が羅列されているが、タワマン入居者と以前からの住人との断絶等の課題がある。またマンション増設による人口増加は、災害時の避難民対応で負担が増えることになる。「コンパクトシティ」という言葉の逆である。人口を増やし税収増との目論見と思うが、納税者はそれに見合う社会保障を享受できるのか。 また、新百合ヶ丘と観光業は、そもそも現時点まったく重ならない。観光よりもっと相性の良い施策に力を入れるべきである。新百合ヶ丘に観光公害を作りださないでほしい。	本まちづくり方針（案）については、駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、取りまとめました。 本まちづくり方針では、「①駅周辺の交通環境の改善及び交通結節機能の強化等」、「②多様な都市機能の拡充とにぎわいの創出」、「③新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）の継承と進化」により、高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯、子供、学生、就業者、来街者など多様な人々が集積・交流・居住するまちをめざし、まちの将来像として、「多様な人々が集うまち」を掲げており、多様な都市機能の充実に向けて、少子高齢化の進展による社会的要請や今後の人口減少を見据えた地域課題に効果的に対応するため、商業、業務、都市型住宅等の多様な都市機能が集積したコンパクトで効率的なまちをめざしていきます。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の実現に向けた取組等を推進していきます。 また、公共公益施設の建替えや大規模な土地利用転換の契機を捉え、魅力的な都市機能の充実、駅周辺の道路や交通広場整備等による交通環境の改善及び、災害時の緊急車両等のアクセス性の向上や災害時に備えた取組等を推進していきます。	D

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
25	地元が中心となり特色あるまちづくりがされてきたことに感動した。その一方で、この想いを継続していくことや担い手が不足していることが課題だと感じる。まちづくりを継続していく仕組みづくりが改めて重要と考えており、市にも尽力いただきたい。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」(案)を作成したところです。 まちづくりを継続していく仕組みづくりについては、「駅周辺の大学などと連携を図りながら、学生や若者がまちに主体的に関わる仕組みづくり」や「地域住民等の主体的な地域活動等」等に関する取組を掲げているところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
26	新百合ヶ丘駅周辺の現況の土地利用や都市基盤、交通体系等の分析、また、近年の鉄道駅周辺のまちづくり事例調査に基づいて、今後のまちづくりの方針がきめ細やかに整理されていたため、提案内容に共感できた。 都市の更新に合わせて、掲げられているまちづくりを実現していただきたい。そのために、今後は本方針に取り上げられている内容から、新百合ヶ丘の個性の発出(他都市との差別化)やまちづくりの優先順位を整理する等、より具体的な検討が必要だと考える。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針(案)を作成したところです。 本まちづくり方針をもとに計画的にまちづくりを進めるにあたって、市北部の広域拠点として、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、駅北側のまちづくりの検討を先行的に進めます。 駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、分野の別基本方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、市民の皆様や地権者等の意見交換等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
27	計画案に賛成である。麻生区役所、図書館地区と現在駐車場となっている部分の一体的なまちづくりにより、その他民間開発事業の起爆剤になると思う。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B
28	麻生区は長寿の町と言われているが、高齢化が進み子育て世代、若い世代とのバランスがとれた街になると良いと思う。特に子育てに優しい街、高齢者に優しい街、また、もっと働く場所が増えたら良いと思う。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 人口減少や少子高齢化など環境の変化等を見据えたまちづくりについては、「歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備」、「多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実」及び「次世代型オフィス等の整備による、持続的かつ多様な昼間人口の誘導」等に関する取組を掲げているところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
29	方針の作成に際しては、広く市民の参加を求めることが何より大切であると考えます。今回のパブコメに際して、市民への周知が不十分である。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 パブリックコメントの実施にあたっては、市民の皆様から幅広く意見がいただけるよう、以下の取組を行い、多くの御意見をいただきました。 ・市政だよりへの掲載 ・市ホームページ、麻生区役所公式SNS、デジタルサイネージ等への掲載 ・市民の皆様によりわかりやすくするためにリーフレットを作成の上、小田急線主要駅、新百合ヶ丘駅近隣商業施設等への配架及び、新百合ヶ丘駅周辺の各種イベント等への出展 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の御意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	D

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
30	ホームセンターを西合同庁舎の跡地に作るべきである。西合同庁舎は区役所側に移転集約して良いと思う。駅前の個人宅と区役所、東亜ビルあたりまでを一体再開発して高層の複合施設を作る。テニスコートがある方面の落ち込んだ地形に美術館を作るべきである。設計案も市民が吟味する必要があると思う。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ。 本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、まちづくり方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の実現に向けた取組等を推進していきます。 計画的なまちづくりの推進に向けては、まちづくりを牽引する土地利用の誘導を図るべきエリアとして駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」等を中心に戦略的誘導エリアに指定し、当該エリアを中心とした効率的・効果的なまちづくりを検討します。戦略的誘導エリアの検討にあたっては、駅北側の交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、駅北側から先行的に検討し、駅南側については、横浜市高速鉄道3号線延伸の進捗状況を踏まえながら、検討を進めていきます。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	D

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
31	100年後も見据えたまちづくり計画を作成すべきである。 計画設計・デザインのモックアップを作り住民の確認・評価を得るべきである。一目瞭然たる目標物を作ることは重要である。 環境省の一部を誘致し、地方分権化の流れを誘導すべきである。人が集まり飛躍の基盤となる。 駅を中心に南北に連結したモール商店街を作るべきである。人の集う、にぎわいのある中心とし、モールは十分なスペースを作り簡単に休めるように作るべきである。 駅北口の整備を最優先にすべきも再開発・設計デザインが出来てからにするべきである。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ。 市北部の広域拠点として、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、駅北側のまちづくりの検討を先行的に進めます。 駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、分野別の基本方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、市民の皆様や地権者等の意見交換等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携や中心部から後背地への連携（回遊性や交通処理機能）の充実等により、まち全体のにぎわいの創出をめざします。 なお、再開発等の具体的な計画は決まっておりませんが、戦略的誘導エリアを中心とした駅至近の土地利用計画等にあたっては、地権者等と意見交換等を行いながら、適切な土地利用を誘導していきます。	D
32	2100年までの中長期計画が必要である。		D

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
33	市北部の広域拠点にふさわしい国内外から将来に亘り持続的に人を呼び込み続ける圧倒的な魅力と吸引力を有する「にぎわい核」の創出を戦略的誘導エリアで実現するため、新百合ヶ丘駅および再整備する駅南北交通広場の上部等に人工地盤を構築してその上に建築物を新設し、「にぎわい核」の3つの戦略的誘導エリアの大規模商業施設×高度利用転換誘導土地×行政敷地を結節し、「にぎわい核」エリア回遊のハブ機能となる2～3層で、屋内と屋外空間を組み合わせた、バイオフィリックデザインも随所にふんだんに取り入れた空間が連続する複合商業交通拠点モール施設を設けるべく、鉄道事業者等の関係者と協議を行って実現することを提唱する。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、鉄道事業者等関係者との意見交換を行うなど、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、まちづくり方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の実現に向けた取組等を推進していきます。	B
34	戦略的誘導エリアの強化については、街の若返りをテーマに捉えるべきと考える。 高齢化が進むことは時代背景として一定やむを得ないが、発展、継続していく街づくりとして循環を絶やしてはいけない。 高齢者以上に子育て世代を取り込むことが注力することが継続的な街の発展を支え、代謝をよくしていくことが川崎市北部の最重要課題である。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 人口減少や少子高齢化など環境の変化等を見据えたまちづくりについては、「歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備」や「多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実」等に関する取組を掲げているところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	B

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
35	隣接する自治体、特に東京都の住民に新百合ヶ丘に来てもらいお金を落としてもらう施策は、再開発でなくても川崎市にとって必要な政策である。そのためにも、多摩市、稲城市、町田市、狛江市の住民にとっても優しいまちづくりが必要となる。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、まちづくり方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の実現に向けた取組等を推進していきます。 なお、再開発等の具体的な計画は決まっておりませんが、戦略的誘導エリアを中心とした駅至近の土地利用計画等に当たっては、地権者等と意見交換等を行いながら、適切な土地利用を誘導していきます。	D
36	コンセプトである目的・目標を実現するための手段として、できるだけ具体的、魅力的な方針（目標と方策）を立案することが必要である。 建物の建て替え、新しい交通のあり方、新たな制度などを検討し、イメージしやすくとりまとめることが必要だと思う。 建物の建て替えは、高齢者の増加に対応して、自分の存在価値を肯定的に受け止め、自分にできることを活用し、人と交流し、誰かの役に立つという自己肯定的な生き方を実現するための場所の確保であり、障害のある方についても同じである。そのための人と交わる居場所や、ちょっとした役に立てられる場所、例えば赤ちゃんや小さい子どもさんを一時的に世話したり預かる仕事は、高齢の子どもを育てたことのある人なら十分に役割を果たせると思う。 有償・無償を含めて、多くの人たちが役に立っていることを実現するために、働ける人を求めている職場と役に立ちたい人とを繋ぐシステムや、運用する場所が必要だと思う。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、まちづくり方針に掲げる、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の実現に向けた取組等を推進していきます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
37	現時点で必要な機能のみならず、次世代交通システム、次世代エネルギーシステムに柔軟にアジャストできる技術、空間など30年後に必要と予想される機能に柔軟に対応できることが望ましい。		C

1 まちづくり方針全般について(88件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
38	新百合ヶ丘駅周辺地区の将来姿がみえない。 今は駅周辺をみたとき、開発余地のある土地は南側では駅東側のフットサルコート、テニスコートの場所位しか見当たらない。再開発を念頭で行うのであれば南口の再開発構想をしっかり持つべきだと考える。 業務、商業等地区を北口に整備するのであれば、どこの範囲までを想定しているのか、構想をハッキリさせるべきである。 更に、アートセンターの北方面には若干の空き地がみらるが、その他はそれほど大きな規模の土地は見当たらない。業務、商業等ほどの位の規模で、どの位のボリュームを考えているのか、分からない。こうした事項への答えがない中で、北口の戦略的誘導エリアも決められないと考える。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところ。 本まちづくり方針をもとに計画的にまちづくりを進めるにあたっては、まちづくりを牽引する土地利用の誘導を図るべきエリアとして駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」等を中心に戦略的誘導エリアに指定し、当該エリアを中心とした効率的・効果的なまちづくりを検討します。 現在、具体的な計画等は決まっていますが、戦略的誘導エリアの検討にあたっては、駅北側の交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、駅北側から先行的に検討し、駅南側については、横浜市高速鉄道3号線延伸の進捗状況を踏まえながら、検討を進めます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
39	各駅と公園を「ソラカラ便」（無人配送や輸送の仕組み）で結ぶことで利便性を高め、高齢者の買い物負担を軽減すると同時に、地域のお店の収益向上につながることを期待できる。	多様な価値観に対応した機能の充実に向けて、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、地域ニーズに対応した機能の導入をめざしていきます。	D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	現在の商業施設はチェーン店が多いので、行ってみたくなるような新百合ヶ丘ならではの店が増えると良い。 (他同趣旨 3 4 件)	商業機能をはじめとした都市機能の誘導に向けては、「新百合ヶ丘の魅力(芸術・文化、緑等)を活かした市及び国内外から人を呼び込む機能の充実」として、多様な価値観に対応した機能の充実を掲げており、新百合ヶ丘の豊かな自然環境や芸術・文化の魅力を最大限に活かして、個性と魅力にあふれた機能の充実をめざしていきます。	B
2	新百合ヶ丘のランドマークになるようなまちづくりを進めてほしい。 (他同趣旨 4 件)	ランドマーク等の特徴あるまちづくりに向けては、「駅中心部の高度利用などによる、多様な都市機能の充実」として、「広域拠点としての新百合ヶ丘駅周辺」を掲げており、本市の主要なターミナル駅としての特徴等を活かし、市内外だけでなく国内外から人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざしていきます。	B
3	商業施設については、地域のコミュニティ醸成の場となることを意識して、既存の駅周辺の魅力的なお店とも連携し、地域との繋がりを重視した施設を誘導してほしい。 (他同趣旨 1 件)	商業機能をはじめとした都市機能の誘導に向けては、「新百合ヶ丘の魅力(芸術・文化、緑等)を活かした市及び国内外から人を呼び込む機能の充実」として、多様な価値観に対応した機能の充実を掲げており、新百合ヶ丘の豊かな自然環境や芸術・文化の魅力を最大限に活かして、個性と魅力にあふれた機能の充実をめざしていきます。 また、多様な世代の交流を支える機能として、地域ニーズに対応した施設の充実をめざしていきます。	B
4	どこかリベラルな雰囲気を持ち文化的な新百合ヶ丘には、もっと多様な飲食店や個人店が集まってほしい。 こういった課題に対して麻生区が助成など行う、または店舗を出しやすいモール(キッチンカー規模のお店が集まるような)などがあれば、若い世代が集まる街に新陳代謝していくのではないかと思います。	商業機能をはじめとした都市機能の誘導に向けては、「新百合ヶ丘の魅力(芸術・文化、緑等)を活かした市及び国内外から人を呼び込む機能の充実」として、多様な価値観に対応した機能の充実を掲げており、新百合ヶ丘の豊かな自然環境や芸術・文化の魅力を最大限に活かして、個性と魅力にあふれた機能の充実をめざしていきます。 また、商業者支援策については、商業者創業支援プログラムにより意欲ある商業者を発掘・育成するとともに、にぎわい創出等のため商店街が主体的に実施するイベントの実施など、商店街や地域の課題解決に向けた取組を支援することで、活力ある商業地域の形成をめざしていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
5	新たなまちづくりを進めるまでには市民の皆さんの時間をかけて丁寧な協議を進める必要があると思う。それまでの間、にぎわいの創出という点で、アートセンター前の公開空地の活用など、できることから進めることで、協議もスムーズにいくものとする。 新百合ヶ丘駅周辺には、多くの公園が立地している。これらと文化施設をコラボレートすることで、芸術のまちがさらに発展すると思うので、協議・検討してほしい。	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化を活かした都市機能の充実に向けて、川崎市アートセンターをはじめとする新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術文化・施設を活かしながら、豊かな芸術・文化を核として地域活性化や地域ブランドをめざす「しんゆり・芸術のまち」に向けた取組を進めていきます。また、アートセンター前のオープンスペースを活用したにぎわいづくりの取組についても着手したところです。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
6	にぎわいを強化するなど、駅北側のまちづくりを進めることに期待している。 (他同趣旨 2 9 件)	駅北側については、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、地権者等との合意形成を進め、戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討していきます。検討にあたっては、交通環境の改善と併せ、魅力の創出等に寄与する都市機能の集積等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する公共施設（区役所、交通広場等）の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備と適切な土地利用誘導を図っていきます。	B
7	駅南側に偏っている都市機能や都市基盤を北口側のまちづくりを進めることで、格差を解消し、駅を中心としたにぎわいを北側も含めた大きな駅前として整備してもらいたい。 (他同趣旨 4 件)		B
8	駅北側については、単ににぎわいを強化するだけでなく、区役所等の市の敷地も活用しながら、駅周辺の回遊を促すような、大規模な再編を検討してほしい。 (他同趣旨 2 件)		B
9	北口のまちづくりは、地上の広場や道路の機能向上や魅力的な機能の誘致を進めていく必要があると思う。 (他同趣旨 2 件)		B
10	新百合ヶ丘駅の北口は、商業施設などの都市機能や安全な歩行者空間が不足していると感じており、4つの基本方針に沿ったまちづくりを進めてほしい。将来世代が「新百合ヶ丘」のまちにより愛着の持てるような、駅空間と一体となったまちづくりを期待したい。		B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
11	今の区役所一帯を、市民館・図書館のある広い広場を備えた緑の多い公園としてデッキに接続できれば、文化施設と憩いの場所と商業施設が隣接することになり、災害時は帰宅困難者の一時避難場所にもなる、住民が自ら運営し自由にパフォーマンスしたり、交流したりできる自由度の高い空間として、麻生区の象徴的な場所になってほしい。	駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」、及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、今後も地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、官民連携したオープンスペースの創出等により、様々な人々が集い、交流が生まれる「人」中心のにぎわいあふれる駅前空間の形成をめざしていきます。	B
12	新百合ヶ丘を象徴するモニュメントとしての外観と内容を持ったデザインされた高層ビルが北口にほしい。 低層部は複数のミュージアム・デジタル対応の多目的ホールや図書館が入り、地域住民に広く開放されるスペースとして、インバウンドを含めた交流人口が望めるエリアとし、中層・高層は多用途の階層とすれば良いと思う。 新百合モニュメントビルの周囲は広い共用開放スペースとして市民、交流人が集う、ウォーカブルで滞留できる空間にしてほしい。	ランドマーク等の特徴あるまちづくりに向けては、「駅中心部の高度利用などによる、多様な都市機能の充実」として、「広域拠点としての新百合ヶ丘駅周辺」を掲げており、本市の主要なターミナル駅としての特徴等を活かし、市内外だけでなく国内外から人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざしていきます。	C

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
13	新百合ヶ丘総合病院へ通ずる経路をウォーカブルな空間でかつ最短経路で連結できると、立地適正化計画における都市機能誘導区域に係る誘導施設としての役目を果たすこともできるのではないかと。上記の経路はこの古沢地区に残る緑地帯との連携経路にもなる。経路上を特徴ある緑の空間で満たすことで、新百合ヶ丘北口におけるもう一つのシンボリックな区域にもなりえる。	駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」、及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 なお、令和6年11月に公表した「川崎市立地適正化計画（案）」においては、病院を誘導施設として設定しておりませんが、今後は同計画を策定し、地域特性やポテンシャルを活かした、都市の魅力や活力を高めるまちの形成に向けた都市機能誘導の取組を進めていきます。	B
14	子育て支援施設や屋内遊戯を充実させてほしい。特に未就学児や小学生が安心して遊べる設備と、子育て世代が気軽に交流できるスペースを整備してほしい。 (他同趣旨24件)	まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現に向けて、子育て世代や若者・高齢者等、様々な世代の交流の促進を図り、地域住民等の主体的な地域活動等の取組の支援や、地域ニーズに対応した施設の充実をめざしていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
15	①幼児にもっとのびのびした生活を。保育環境を一極集中させる。保育園児達の公園への移動の際、「歩行者の迷惑にならないように」など、保育士さん達がかなり気を遣っているのをよく見かける。緑地や公園に保育施設や子供が遊べる空間をまとめるなど、移動を減らした方が誰にとってもストレスがないかと思う。 ② 学童の体験の充実。子どもの遊び場が少なく、そして遊び方を知らない子どもが多い気がする。ケガはなくて当たり前の風潮が根付いてしまっているため、どうしても保守的にならざるを得ないのだと思うが、もっと冒険できる場を設けてみてはどうか。子ども達の多様な体験のためにも、管理しすぎない空間、子ども達の好奇心や興味関心の芽を伸ばす空間があればいいと思う。 ③ 「実体験」ができるまち。子どもに単なるデータではない、五感を使った実体験をさせてあげたいという保護者が多いのだと思う。駅から少し離れはすると思うが、実際にこういった体験ができる機能を備えた「緑」を誘致できたりしないか。 ・ルールで縛るのではない、思いやりや寛容さで機能するまち。 ・子どもの可能性を引き出すまち。 ・自然と共存するまち。 どれも実現できるかどうかは住民の意識次第だろうと思うが、住民の意識を変えるために街づくりからご協力いただけると嬉しい。	公園・緑地等については、公園・緑地の立地特性や地域ニーズ等を踏まえた、都市の価値を高め、魅力ある公園・緑地づくりを進めるとともに、公園・緑地等を活用した地域活動等の取組を促進していきます。 子育て世代や若者・高齢者等、様々な世代の交流の促進に向けても、地域住民等の主体的な地域活動等の取組の支援や、地域ニーズに対応した施設の充実をめざしていきます。引き続き、市民の皆様の御意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて、参考とさせていただきます。	C
16	駅周辺の商業施設等の建替え等、まちのリニューアルを抜本的に進めてほしい。 (他同趣旨3件)	市北部の広域拠点として、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
17	いま、新百合ヶ丘周辺で暮らしている子供たちが、将来も新百合ヶ丘で暮らしたいと思えるように、緑あふれる心地よい環境や、働ける環境、文化・芸術・スポーツなど若い世代が活躍できる環境が整備されるといいと思う。	子供たちをはじめ若者、子育て世代等、様々な世代の皆様にまちへの愛着を持っていただけるよう新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を活かしながら地域ニーズに対応した施設の充実をめざしていきます。また、若い世代の皆様によりまちづくりに関わっていただき、まちに愛着を持つきっかけをつくることも必要と考えており、学生や若者がまちに主体的に関わる様々な取組を検討し、若い世代による活気にあふれたまちをめざしていきます。	B
18	商業施設や交通の便の充実が最優先。街のランドマークとなる商業施設等の誘致により街のブランドイメージ向上に努めていただきたい。	ランドマーク等の特徴あるまちづくりに向けては、「駅中心部の高度利用などによる、多様な都市機能の充実」として、「広域拠点としての新百合ヶ丘駅周辺」を掲げており、本市の主要なターミナル駅としての特徴等を活かし、市内外だけでなく国内外から人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざしていきます。	B
19	駅前に広場等の人が憩える空間・滞留できる空間を増やしてほしい。 (他同趣旨 14 件)	駅周辺については、市北部の広域拠点にふさわしい「にぎわい核」の強化として、駅中心部の高度利用とともに、民間活力を活かした広域拠点にふさわしい都市機能の充実や、官民連携した緑やオープンスペース等の創出により、豊かな緑空間及びにぎわい機能に加え、防災機能の強化をめざすこととしていきます。また、官民連携したオープンスペースの創出等に向けては、様々な人々が集い、交流が生まれる「人」中心のにぎわいあふれる駅前空間づくりの整備をめざしていきます。	B
20	駅を中心に、商業施設、文化施設、行政施設、公園/緑地が隣接するのが望ましい。 (他同趣旨 1 件)	市北部の広域拠点として、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様 의견等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実に向けて、駅中心部の高度利用を推進し、多様な都市機能が集積したコンパクトで効率的なまちをめざしていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
21	デッキは南口で完結しており、北口は駅前の車道で分断されているので、南口から北口にかけて、人中心の空間が連続していると北口にも人のにぎわいが波及すると思う。 (他同趣旨10件)	駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」、及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携や中心部から後背地への連携（回遊性や交通処理機能）の充実等により、まち全体のにぎわいの創出をめざしていきます。	B
22	高層化を可能にすることはもちろん有効である。加えて、南口ペDESTロリアンデッキを、駅舎をまたいで北口まで延伸し、さらに世田町線付近まで延伸した場合、高低差約20～30mの広大な空間(地下空間ともいえるが)が創出される。この空間を最大限に利用することが肝要である。	駅北側のまちづくりの検討にあたっては、駅至近の「高度利用されていない大規模な土地」を中心に、区役所等の公共施設の敷地との連携を検討するとともに、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」、及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携や中心部から後背地への連携（回遊性や交通処理機能）の充実等により、まち全体のにぎわいの創出をめざしていきます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
23	新百合ヶ丘周辺地区は、既に駅南側を中心に商業施設や文化機能など多くの都市機能が発展しているが、まちづくり方針にある通り、駅北側の交通環境の改善や賑わいの創出が実現できれば、南口・北口を一体とした駅周辺エリアを中心に、更なるまちの発展が実現できるエリアであると改めて感じた。 また、新百合ヶ丘は豊かな自然環境と芸術・文化施設にも恵まれていることから、その強みを生かした独自のまちづくりを期待している。	市北部の広域拠点として、まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」を見据えて、交通環境の改善や、魅力的な都市機能の集積等に向けて、「市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実」、「誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備」、「緑あふれる潤いある都市環境の整備」及び「災害時における都市の防災性の向上」の視点をもとに、地権者との意見交換や市民の皆様の意見等を踏まえながら、検討の深度化を図っていきます。 また、まち全体のにぎわいの創出に向けて、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携を図る都市軸の充実をめざします。芸術・文化については、川崎市アートセンターをはじめとする新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術文化・施設を活かしながら、豊かな芸術・文化を核として地域活性化や地域ブランドをめざす「しんゆり・芸術のまち」に向けた取組を進めていきます。	B
24	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化をまちづくりにしっかり活かしてほしい。 (他同趣旨 7 件)	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化を活かした都市機能の充実に向けて、川崎市アートセンターをはじめとする新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術文化・施設を活かしながら、豊かな芸術・文化を核として地域活性化や地域ブランドをめざす「しんゆり・芸術のまち」に向けた取組を進めていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
25	アートや音楽に親しむ・見識を深める場所が乏しいので、アートや音楽を楽しめる空間や洗練されたお店が沢山増えると街としての個性が強められると思う。	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化を活かした都市機能の充実に向けて、川崎市アートセンターをはじめとする新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術文化・施設を活かしながら、豊かな芸術・文化を核として地域活性化や地域ブランドをめざす「しんゆり・芸術のまち」に向けた取組を進めていきます。 また、市内外だけでなく 国内外から人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを目指してまいります。	B
26	新百合ヶ丘駅周辺再開発にあたり、芸術・文化機能の拡充として、複数の会議室、音楽室、ホールを備えた芸術・文化施設の計画や、洗練されたお店が沢山増えると街としての個性が強められると思う。		B
27	大きな文化ホールといった従来型の箱物志向から脱却し、例えば音楽と映像をデジタルで融合させた発信スタジオ施設といったこれからの文化をけん引できる施設やコンテンツの導入を検討いただきたい。	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化を活かした都市機能の充実に向けて、川崎市アートセンターをはじめとする新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術文化・施設を活かしながら、豊かな芸術・文化を核として地域活性化や地域ブランドをめざす「しんゆり・芸術のまち」に向けた取組を進めていきます。 いただいた御意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。	C
28	単に音楽ができる、講演もできる、会議もできるという発想ではなく、味覚である食文化、嗅覚・触覚を刺激するアロマセラピー等も含めた人の五感を刺激する場の提供、新たな芸術創出の場の提供が必要。		C
29	地域の拠点となる最先端の大きな文化芸術の施設を作るべきである。その建物は、この地域のアイデンティティを示すアイコンとなる造型であるのが望ましく（アクロス福岡のように）、かつ、文化芸術を専門としないものも日常的に触れる地域のコアとなる場所にあるべきである。		C

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
30	まちづくりの方針図では「にぎわい核」にアートセンターが含まれていないようなので、アートセンターコアという設置目的を果たすためにも、しっかり加えていただきたい。	「まちづくりの方針図」では、まちの将来像の実現に向けて、市北部の広域拠点にふさわしい「にぎわい核」などの強化を図ることとしており、その取組の方向性の一つとして、アートセンター等を活かした「しんゆり・芸術のまち」の取組を推進することとしていることから、アートセンターが「にぎわい核」に明確に含まれるよう図の一部を見直します。	A
31	にぎわいが足りないので、駅を含めて、多くの人が交わりにぎわう新しい雰囲気の街になっていくことを期待する。 (他同趣旨 3 件)	まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現に向けて、駅中心部の高度利用とともに、民間活力を活かした市北部の広域拠点にふさわしい新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を踏まえた都市機能の充実や、官民連携した緑やオープンスペース等の創出などの「にぎわい核」の強化に向けた検討を進めていきます。	B
32	にぎわいのある町化等、課題は多いがしっかりした計画のもとに進めれば充分可能だと思う。		B
33	駅周辺の様々な場所でイベント等を開催してほしい。 (他同趣旨 3 件)	本まちづくり方針では、高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯など、誰もが安心して住み続けられるよう、子育て世代や若者・高齢者等、様々な世代の交流の促進に向けた地域住民等の主体的な地域活動等の取組の支援や、地域ニーズに対応した施設の充実をめざすこととしています。また、オープンスペースや公園・緑地の活用により、多世代の交流が可能な地域コミュニティの場を形成するなどの都市環境の整備に係る取組を進めていきます。	B
34	海外の企業にも選ばれるまちになってほしい。外国人など多様な人との交流が大事だと思う。	本まちづくり方針では、海外の人材の受け皿となるインターナショナルスクールや産学連携による起業家の育成に資する機能などの様々な教育機能の導入や連携を促進し、多様な人々や企業等に選ばれるまちとして効果的な機能の充実を図ることとしています。	B
35	昼間人口を増やすためにもオフィスが必要。	まちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現に向けて、市北部の広域拠点にふさわしい都市機能の充実を図り、次世代型オフィス等の整備による持続的かつ多様な昼間人口の誘導に向けた検討を進めていきます。	B

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
36	新百合ヶ丘は徒歩3分で住宅街になり、商業区域が狭いと感じる。容積率も低いのか、他の繁華街に比べ低いビルしか無い。	駅中心部については、高度利用を図るとともに新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を活かした都市機能の充実や、官民連携した緑やオープンスペースの創出等により、個性と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざしていきます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
37	新百合ヶ丘の大きめの宅地が多い立地を活かし、麻生区が二世帯住居を推進するようなまちづくりを検討してほしい。また、空家問題についても、例えば地域ごとに行政支援によって空家を借上げリノベーションし、高齢者の憩いの場やリモートワークする現役世代のワークスペースにすれば、希薄になる自治会内でのコミュニケーションも生まれ活気付く可能性もある。	本まちづくり方針のまちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現をめざし、多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実を図り、子育て世帯の定住促進や高齢者世帯の安定居住に向けた取組を推進していきます。 いただいた御意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。	C
38	世代交代をしっかりと進められるような住まいを考える必要がある。	本まちづくり方針のまちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現をめざし、多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実を図り、子育て世帯の定住促進や高齢者世帯の安定居住に向けた取組を推進していきます。	B
39	駅前にも高質なレジデンスが必要。新百合ヶ丘の高質なクオリティを示すような住まいを整備してほしい。	本市では、これまで各拠点地区等において、地域特性に応じ、地区計画等を設定することで無秩序な開発を抑制し、都市基盤整備と併せて商業、業務、都市型住宅等の都市機能を集積することにより、利便性の高いまちづくりを進めてきました。新百合ヶ丘駅周辺地区も含めて、今後も引き続き、誰もが暮らしやすいまちづくりをめざし、計画的に土地利用を誘導し、魅力ある都市拠点の形成を進めていきます。	D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
40	多様な居住ニーズへの対応、住み替えの促進について、最近、タワーマンションに関する問題点が指摘されることがあると認識しているので、タワーマンションを建設する場合には、低所得者層の負担増にならないよう、十分に検討し検討結果の開示をお願いしたい。	本市では、これまで各拠点地区等において、地域特性に応じ、地区計画等を設定することで無秩序な開発を抑制し、都市基盤整備と併せて商業、業務、都市型住宅等の都市機能を集積することにより、利便性の高いまちづくりを進めてきました。新百合ヶ丘駅周辺地区も含めて、今後も引き続き、誰もが暮らしやすいまちづくりをめざし、計画的に土地利用を誘導し、魅力ある都市拠点の形成を進めていきます。 また、本まちづくり方針のまちの将来像に掲げる「多様な人々が集うまち」の実現をめざし、多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実を図り、子育て世帯の定住促進や高齢者世帯の安定居住に向けた取組を推進していきます。 なお、現段階では具体的な計画等は決まっておりませんが、今後の検討状況に合わせて、適切に対応していきます。	D
41	今後、人口減少が進むことが想定されるなかで、単に住宅用の高層マンションを建設することは、将来的な住民の高齢化やマンションの老朽化などの様々な課題を抱える可能性があるため、望んでいない。 (他同趣旨 2 件)	本まちづくり方針（案）における土地利用に関する取組の方向性として、少子高齢化の進展による社会的要請や今後の人口減少を見据えた地域課題に効果的に対応するため、駅中心部の高度利用を促進し、商業、業務、都市型住宅等の多様な都市機能が集約したコンパクトで効率的なまちづくりをめざすこととしています。 現在、具体的な計画等は決まっていますが、引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。	D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
42	運動できる施設は健康のまちづくりにおいて非常に重要な施設であるので、今後のまちづくりにおいてもより「スポーツ」に注目し、まちづくりに取り入れてほしい。 (他同趣旨 6 件)	本まちづくり方針（案）では、コンパクトで効率的なまちづくりや、様々な世代の交流の促進などを取組の方向性として掲げ、多様なニーズに対応した、都市機能の誘導を図ることとしていますので、スポーツや健康づくりについても多様なニーズの一つとして認識するとともに、今後も市民の皆様の意見を伺い、ニーズの把握にも努めながら、まちの将来像にかかげる多様な人々が集うまちの実現に向けて、誘導を図る具体的な機能について検討していきます。	D
43	「新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」を策定するにあたって、「スポーツ・健康まちづくり」の視点を取り入れていただくよう求める。 少子高齢化、人口減少が進む中、子育て世代から選ばれるまちであり続けることは、今後のまちづくりを考える上で重要な視点である。 新百合ヶ丘駅周辺地区には、多様なスポーツ施設が集中して存在し、市民が気軽にスポーツを楽しめる環境が形成されており、「誰もがスポーツに親しみ、健康増進が期待できるまち」たる素地が十分に存在する。同地区は、既にスポーツのまちであるといっても過言ではなく、「スポーツ・健康まちづくり」のモデル地区となり得るポテンシャルを秘めていると考えられる。 市民が気軽にスポーツを楽しめる環境を損なわないようにすること、また、緑空間の形成や公園・緑地の整備にあたっては、単にこれらを配置するにとどまらず、同空間が、市民がスポーツを楽しめる場所となるような工夫をすることを求める。 (他同趣旨 1 件)		D
44	金程地区は北側、西側を東京都稲城市に隣接しており、県境である境界部分は川崎市、稲城市ともに手薄で、賑わいや交通などがエアポケットになっている地域に感じる。川崎市と稲城市で連携したまちづくりを行ってほしい。		D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
45	今後建設するマンションの住人に外国人を想定する場合、日本語能力の有無など慎重に人選をしたうえで人数も限るべき。日本人の海外赴任同等と考えて、日本に有益な人材は住むことを許可、退職後は速やかに退去させることでお願いする。	本まちづくり方針では、高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯など、誰もが安心して住み続けられるよう、多様な居住ニーズやライフステージに応じた住まい・住まい方の構築を図ることをめざしています。	D
46	新百合ヶ丘は、よみうりランドへのバスがあり、近くに新ジャイアンツ球場も春に開業するので、稲城市と連携して、エンターテイメントも楽しめる街としても可能性があると思う。	よみうりランドは、本市多摩区と稲城市に跨って位置し、遊園地のほか多摩丘陵の一部を構成する緑豊かな自然環境と調和した広域的なレジャー機能を有する地区です。 本まちづくり方針では、新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化、緑、地域活動等を継承し、進化させることを将来像の1つとしてお示ししたところであり、芸術や文化、緑などに親しみ、楽しめるようなにぎわいの創出等に取り組むとともに、新百合ヶ丘周辺の様々な他の地域資源も効率的かつ効果的に活用していきます。	D
47	この方針（案）に教育・学習というアプローチがないのが大変残念と感じた。 どこかに「多様な主体による地域づくりのための学びの支援」を入れて、市民館・図書館などの社会教育施設、大学、市民団体、企業による学びの支援や連携というような内容を入れて欲しい。長いスパンを考えると、子育て世代、小学校から大学生までの若い世代の学びを各方面で支え、新百合ヶ丘全体が「まなびの共同体」として機能するようなまちづくりをめざして欲しい。	本まちづくり方針では「多様な人々が集うまち」をまちの将来像として定め、子育て世代や若者・高齢者等の様々な世代の交流の促進に向けて、地域住民等の主体的な地域活動等の取組の支援や、地域ニーズに対応した施設の充実をめざすとともに、駅周辺の大学などと連携を図りながら、学生や若者がまちに主体的に関わる仕組みづくりを検討し、若い世代による活気にあふれたまちをめざすこととしており、その取組の中で学びの支援の充実も進めていきます。	D
48	新百合山手中央通りのガス灯つながりでロンドンのどこかの地域と姉妹駅協定を結んで欲しい。住人への英語教育・英語イベントの開催など、しんゆりに国際色を少しずつ出して欲しい。	新百合ヶ丘の魅力である芸術・文化、緑等を活かし、国内外からも人を呼び込むため、多様な人々の集積や交流に向けた様々な教育機能の導入や連携を促進するなど、多様な人々や企業等にも選ばれるまちとして効果的な機能の充実を図っていきます。	D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
49	スタートアップ企業の誘致にも対応できるよう、企業誘致に特化したインフラ整備は必至である。次世代エネルギーは多様化することは必定である。また我が国の送電環境を考慮すると各種エネルギー源のバランスをとって制御する技術、いわゆるVPP(バーチャルパワープラント)技術が有効である。このVPPおよびDR(デマンドレスポンス)関連企業を誘致できれば一石二鳥である。	多様な人々や企業等に選ばれるまちとして、効果的な機能の充実を図っていきます。	D
50	学校があることは非常によい。若者がまちに増える。	本まちづくり方針では、多様な居住ニーズ等に応じた住まい・住まい方や交流を支える機能の充実を図るため、駅周辺の大学などと連携を図りながら、学生や若者がまちに主体的に関わる仕組みづくりを検討し、若い世代による活気にあふれたまちをめざすこととしており、若い世代をはじめとする多様な人々に選ばれるまちづくりを進めていきます。	B
51	水素燃料の利用社会、スポーツの街、文化芸術の街の、バランスの継続が必要である。	本市の脱炭素戦略(かわさきカーボンゼロチャレンジ2050)を踏まえた環境配慮の取組のほか、新百合ヶ丘駅周辺の豊かな自然環境、芸術・文化の魅力を最大限に生かしながら、多様な人々や企業等に選ばれるまちとして効果的な機能の充実を検討していきます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
52	魅力あるパブリックスペースを創出して欲しい。	市北部の広域拠点にふさわしいの強化に向けて、駅中心部の高度利用とともに、民間活力を活かした広域拠点にふさわしい都市機能の充実や、官民連携による緑やオープンスペース等の創出により、豊かな緑空間及びにぎわい機能に加え、防災機能の強化を図っていきます。	B
53	まちづくりの方針図の「断面イメージ」について、小田急線が、道路よりも低く表現されているなど、現状と異なり誤解を与える。	「断面イメージ」については、まちづくりの方針図を断面的に概念図として示したのですが、鉄道と道路の高さ関係等について誤解を与えないように図の一部を見直します。	A

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
54	若い人からAI・パソコン・スマホの操作を教わることが日常的に、気軽に、当たり前になるようになることは、人を見る時の物差しを増やすこと、ダイバーシティの普及にもなる。	高齢者、障がい者、外国人、子育て世帯など、誰もが安心して住み続けられるよう、様々な世代の交流の促進に向けた地域住民等の主体的な地域活動等の取組の支援や、地域ニーズに対応した施設の充実をめざしていきます。	D
55	川崎市の特別自治市の構想の一環で、新百合ヶ丘駅前周辺地域への国際連合の関連機関の機能の一部の誘致が必要であり、全世界へ24時間365日の情報発信で、全世界をリードするとともに、新しい防災庁の機能の一部の誘致や、観光庁・スポーツ庁の機能の一部の誘致が必要である。	特別市（特別自治市）は、市域内の行政サービスを一元的に担い効果的な施策を展開することで、「魅力的な発展を続けるまちづくり」が可能となるなど、効果が期待できると考えています。一方で、現時点においては、新百合ヶ丘駅周辺において、特別市に関する取組の一環として、国際連合の関係機関の誘致等を行うなどの具体的な検討は行っておりません。	D
56	「しんゆり芸術のまちづくり」は、地域住民の高い芸術・文化の指向と活動によって育まれてきたものである。それは、市民主導で行政が支援し、事業者が協力するスタイルを貫いてきた。今後のまちづくりにもこのスタイルを踏襲してもらいたい。	新百合ヶ丘駅周辺については、様々な地域団体により活動等が活発に行われていますが、地域活動については市民や地元企業等の多様な主体に係ることが重要と考えており、官民の役割分担のもとで、まちの将来像に掲げるにぎわいの創出や新百合ヶ丘の魅力の継承と進化に取り組んでいきます。	B
57	リニア中央新幹線の神奈川県駅の活用が必要である。	リニア中央新幹線については、その整備効果として、移動時間の大幅な短縮により、交流の機会及びライフスタイルの転換の可能性の拡大などが見込まれるとされています。新百合ヶ丘駅は、神奈川県駅が整備される橋本駅周辺を運行する鉄道とは接続していませんが、3号線の延伸等も含め、駅周辺を取り巻く環境の変化を見据えて、新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑等）を活かした市及び国内外から人を呼び込む機能の充実を検討していきます。	D

2 土地利用について(208件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
58	婦人科は新百合に1件のみ且つ予約ができず休日は非常に混雑しており、子育て世代が多い街と思われるにも関わらずレディースクリニックがないのは不便。	新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 本まちづくり方針では、少子高齢化等の課題に効果的に対応するため、コンパクトで効率的なまちづくりを掲げ、子育て世代も含めた多様なニーズに対応した、都市機能の誘導を図ることとしていますので、いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	新百合ヶ丘駅周辺の道路が混雑しており、南北の往来に支障があるので、改善してほしい。 (他同趣旨40件)	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置等の都市基盤の整備のほか、公共交通機能の適正配分等のきめ細やかな運用により、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上などの交通結節機能の強化を図ります。	B
2	市の北部にも皆さんが足を運びたいような交通環境のまちづくりを期待したい。		B
3	開発などで周辺道路が混雑しないようにしてほしい。 (他同趣旨2件)		B
4	道路交通の整備を進める。現状、車に対して道路容量が不足しており、バスも渋滞に巻き込まれる。バスが不便なために、より車の依存度が高くなる。道路を拡幅し、バス専用レーンを設置する等がないと現状の改善はできないのではないかな。		B
5	駅周辺の交通環境の改善と合わせて、安全で快適な歩行者動線を整備してもらいたい。 (他同趣旨1件)	駅周辺においては、自動車の交通環境の改善と併せて、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
6	車が混んでいてバスが遅れるため、バスの定時運行に繋がるまちづくりをしてほしい。 (他同趣旨1件)	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 また、新百合ヶ丘駅の特性や今後の駅利用者数の増加を見据えて、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざします。	B
7	駅周辺の道路の幅員が狭く、土日・祝日の朝から晩まで混雑している。災害発生時だけではなく、日々の救急活動の支障にもなっている。防災対策も含めて道路拡幅は重要。 (他同趣旨3件)	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 また、区役所や消防署等の防災関連施設の適正な更新時期を見据えた建替えや、建替えに合わせて、緊急輸送道路に位置付けられる県道世田谷町田へのアクセス性の向上を図るなど、防災性の高い交通ネットワークの形成をめざしていきます。	B
8	駅周辺の交通環境の改善のため、土地利用転換の際に駐車場を整備してもらいたい。 (他同趣旨2件)	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 なお、駐車対策については、駅周辺の路上駐車に対して、適正な駐車場利用を促すとともに、駐車需要を発生させる一定規模以上の建築物に対しては、「川崎市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」に基づいた協議・指導を行っていきます。	B
9	3号線延伸で新百合ヶ丘駅まで自動車で移動し、本鉄道に乗り換える需要が発生する。交通混雑を課題に挙げられているので、現在と将来の交通シミュレーションやそれらを踏まえた対応についても記載いただきたい。	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 また、将来交通については、横浜市高速鉄道3号線の輸送人員は7.9万人/日と試算されておりますが、今後、土地利用の検討の進捗に合わせて深度化を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
10	バスターミナルが中央にあるせいで駅周辺の店舗建設場所が限定されているように感じるので新宿バスタのように駅から少し離れた場所に新たに設けたらどうか。	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置等の都市基盤の整備のほか、公共交通機能の適正配分等のきめ細やかな運用により、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上などの交通結節機能の強化を図ります。 あわせて、駅中心部については、まちの将来像に掲げる、新百合ヶ丘の魅力（芸術・文化、緑、地域活動等）を踏まえた都市機能の充実や、官民連携した緑やオープンスペース等の創出により、魅力ある空間の検討を進めていきます。	B
11	南口側に店舗が集中しているので、北口側にも店舗などがあれば、車の流れも分散され、駅周辺の渋滞解消されるのではないかと。		B
12	まちづくり方針案は良く検討された内容だと感じ、異論はない。以下は方針案を拝見して、新百合ヶ丘駅北口側在住の市民として普段感じていることを記載する。検討の1つの参考としていただきたい。 下平尾バス停～麻生警察署前バス停間でよく渋滞して進まない。渋滞の原因は、麻生警察署前バス停（新百合ヶ丘駅方面）の位置にあると感じており、変更や廃止を検討してはどうか。 南北のタクシー乗り場や小田急改札前で、南口/北口それぞれのタクシー待ちの状況が分かる表示（行列or客待ちタクシーのカメラ画像や有無の分かる簡易な表示など）があるとありがたい。 新百合ヶ丘駅周辺はタクシー配車禁止エリアになっており、アプリでの配車（配車禁止エリア）の利便性も踏まえて交通環境の再整備をしてほしい。 駅北口のタクシー乗り場は雨に濡れるため、屋根が広がるといい。 駅周辺のタクシーの行列には多くのお年寄りを見かけるため、もっと椅子が多いといい。		B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
13	特に北口麻生スポーツセンター入口～合同庁舎のある駅中心地に向かう上り坂について、上り車線側の歩道が無駄に広すぎるために車線が狭すぎ、駅近くに駐輪場があるのに自転車・バイクと自動車が並行して進むことが出来ない。9号線からエルミロードに車に向かうにはこの道を進むしかなく、開店時間帯などにすぐ渋滞してしまう。 駅前ロータリーの構造はイオンの駐車場から出るためには一般車もUターンのためにわざわざ中まで進む必要があり、タクシーや一般車の障害となっている。OPAの駐車場は建物から離れており、利便性が低い。 ここに限らず、新百合ヶ丘駅周辺の道路は尻手黒川方面から駅に向かうためには必ず坂道を上って交差点を右折する必要があるために渋滞を引き起こしやすく、さらに曲がる車が歩行者のために信号の時間を有効活用できず、流入する車が捌き切れていない。 津久井道の新百合山手周辺はせっかく広い道路を上下1車線で使用しており、道路として機能していない。 新百合ヶ丘周辺の道路事情は車利用者のことも重視してデザインを検討してほしい。	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 また、駅南側においては、南北の路線バスの集中や駅直近を通過する交通の影響により混雑が生じていることから、周辺の幹線道路の整備進捗を図るとともに、将来の横浜市高速鉄道3号線の延伸を見据えて、南北の交通広場の適正配置、交通機能の適正配分などにより、駅のアクセス性の向上を図ります。 なお、南口駅前広場については、周辺商業施設の入出庫利用もあり、一部時間帯において混雑が生じている状況ですが、引き続き状況を注視しながら、関係部局と連携して適切に対応していきます。	B
14	駅周辺の渋滞については、設計の仕方がまずかったので、今後活かしてイオンの出入口、ヤオコー、最初の段階でもう少し考えるべきだったので、次はちゃんと考えてほしい。		B
15	駅北側に稲城市方面発着バスのバスプールを整備し、方面ごとの乗り場を作り、南口発着バスの分散により、交通量の分散を図る。		B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
16	住民が望んでいるのは新宿方面の通勤時の満員電車の解消。小田原方面も空いているとは言えない。車で移動できる限界以上の住人を集めてはいけない。	駅周辺の課題の改善やより魅力ある広域拠点の形成に向けて、新百合ヶ丘駅周辺のまちの将来像やその実現に向けた取組の方向性等を定めるとともに、市民や関係権利者等と共有し、協働・連携により、駅周辺の適切な土地利用やにぎわいを創出する市民活動などのまちづくりを進めるために、本まちづくり方針（案）を作成したところです。 引き続き、本まちづくり方針をもとに、様々な機会を捉え、市民の皆様の意見を伺いながら、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めてまいります。	D
17	上麻生のアートパークスから向かいのクリーニング屋さん辺り（神奈川県川崎市麻生区上麻生1丁目12）に横断歩道を作してほしい。	横断歩道の設置については、歩行者や自動車等の安全で円滑な交通への影響を踏まえながら、必要に応じて交通管理者と協議していきます。	D
18	「平尾・千代ヶ丘・金程方面」の住民はいまわざわざ遠回りして駅南口のバス停を利用している。 これは経済的・時間的・肉体的など余分な負担を強いられている。 提案として、将来この方面のバス停を北口に設置してもらいたい。 ※北口にある既存の建物等を買収して公共の土地にして、北口方面の人のため駅の北口にバス停設置を希望する。	駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置を図るとともに、駅南北の公共交通機能の適正配分を図ることで、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上を図ります。 また、駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしております。 検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備等を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
19	「新百合ヶ丘駅入口」交差点から駅方向に向かうと「新百合ヶ丘駅北口」交差点には麻生消防署方向への右折車線が無い。新百合ヶ丘駅北口から「新百合ヶ丘駅入口」交差点方向に向かうと同交差点には世田谷方面へ向かう右折車線が無い。最近、新たに開店したヤオコーでは若葉台方面から右折で駐車場に入れない為、新百合ヶ丘駅北口方向へ迂回させられている。 新百合ヶ丘駅北口は自家用車・病院の送迎車両、客待ちタクシーで溢れ駅前ロータリーとして全く機能していない。既存の建物等すべてを移転・撤去の対象としてバスロータリーを含む北口再開発をお願いしたい。	駅北側のまちづくりの検討にあたっては、交通環境の改善と併せ、魅力の創出等に寄与する都市機能の集積等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備と適切な土地利用誘導を図ります。	D
20	北口の道路や駅前広場は混雑しているので、道路や広場の拡充などにより改善してもらいたい。 (他同趣旨16件)	駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしております。また、検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備等を図ります。	B
21	区役所等を含めた北側のまちづくりを早急に進めて、抜本的な渋滞対策を行ってほしい。 (他同趣旨7件)	駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしております。また、検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備等を図ります。	B
22	駅北側の交通環境の改善と合わせて、南口のようなデッキによる安全な歩行空間の整備など、北側は坂道が多いので、歩きやすいまちづくりが必要である。また駅南北の連携や、区役所や万福寺ふると緑地等への歩行者ネットワークの充実を図ってもらいたい。 (他同趣旨36件)	駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしております。また、検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備等を図ります。 また、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。 併せて、駅南北を結ぶ軸線を都市軸として位置付け、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携や中心部から後背地への連携（回遊性や交通処理機能）の充実を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
23	駅北側の戦略的誘導エリアにおいて高度利用と民間活力を活かすと示されているが、高層住宅や大型商業施設の建設が可能となる都市計画の誘導は、多くの人や車の北口側への流入に繋がり、これまで静穏であった万福寺1丁目住宅環境悪化への懸念を感じる。 特に、麻生区役所北側の道路（カクヤスやグッドタイムリビングのある通り）は通学路だが、これまで以上に車が通行することがないように計画を進めてもらいたい。	駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしておりますが、検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備と適切な土地利用誘導を図ります。	D
24	交通渋滞解消しバスが慢性的に定時運行出来ない駅前付近の状況を根本的に解消するよう、プライオリティを明確に付けて計画してほしい。	交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、駅北側について本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討していきます。	B
25	散歩したくなるようなウォーキングスペースは若い人たちには楽しいものであるが、高齢者、障がいのある人たちにも配慮したものにして欲しい。	歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。	B
26	歩車分離は、歩く距離が増えて歩行者が不便にならないような分離が望ましい。（現状、駅改札から南側・東側へ続く歩行空間は同一平面で道路につながり非常によくできている）	現在、駅南側の歩行空間は同一平面で繋がっておりますが、駅北側については歩行空間が狭く、高低差もある状況のため、安全・安心で利用しやすい歩行空間づくりが必要です。 このため、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
27	「誰もが歩きやすく 移動しやすい」そのような導線の確保が大事と考える。上ったり、下ったりすることで（駅の南から北へ向けても）たくさんの歩行が健康寿命にもつながるという見方もあるかもしれないが、南北へつながる広い公道が、安心、安全である。 （他同趣旨1件）	歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。 また、駅南北間の連携を強化し、駅周辺の回遊性を促進するとともに、人中心のウォークアブルなまちづくりに向けて官民連携したオープンスペースの創出等を図ります。	B
28	地上階と歩行者デッキ階の間にスロープを設置し、ベビーカーや車いすの利用者の方がエレベーターを待たずに移動できるようにするなど、垂直方向のウォークビリティの向上についても「まちづくり方針」の中で検討いただきたい。 （他同趣旨1件）		B
29	ペDESTリアンデッキを北口まで延伸することにより、高低差によって創出される空間は、新たな交通機関の集約、発着拠点となりうる。既存のバスに限らず、次世代Maas、もしかしたらLRTの発着拠点となりうる。	歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。 また、駅から離れた地域からの駅アクセスを確保するため、路線バスや多様な交通手段（シェアサイクル等の自転車利用やデマンド交通）の導入促進を図るとともに、駅前広場等におけるこれらの受け入れ体制の確保をめざします。	B
30	南口にある歩行者デッキは開放性があり、回遊性が高いが、真夏の炎天下や雨の日など、気象状況によっては歩きづらく感じる。日差し避けの活用等も検討のうえ、天候に左右されにくい回遊空間を歩行者デッキを中心に整備することを「まちづくり方針」の中で検討いただければ幸いである。	歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。 また、グリーンインフラなどによる緑陰や蒸発効果などの緑や水が有する暑熱対策機能を活用するなど、快適な歩行空間をめざします。	B
31	駅周辺は高齢者や子供でも安全に利用できるように、自転車等の安全な通行環境を整備すると共に、自転車利用者のマナー啓発してほしい。 （他同趣旨11件）	駅から離れた地域からの駅アクセスを確保するため、路線バスや多様な交通手段（シェアサイクル等の自転車利用やデマンド交通）の導入促進を図るとともに、駅前広場等におけるこれらの受け入れ体制の確保をめざします。 なお、自転車のマナーアップ向上に向けて、関係団体等と連携して交通安全キャンペーン等を実施しています。また、警察と連携して小学生や幼稚園・保育園児を対象とした交通安全教室の実施、中高生を対象としたスケアードストレート方式（スタントマンによる事故の再現など、ヒヤットとする体験を通じて啓発を行う手法）による交通安全教室を実施しています。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
32	駅周辺では一般車の交通が中心になりすぎており、渋滞がひどくなっている。一方で、バスが減便されているので、バスをはじめとする公共交通も増やしてほしい。 (他同趣旨5件)	新百合ヶ丘駅の特性や今後の駅利用者数の増加を見据えて、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざします。	B
33	免許を返納して車をやめたので、乗り合いタクシー等移動手段の選択肢が増えとうれしい。 (他同趣旨1件)		B
34	公共交通の南北適正配置について、駅北口は狭く機能していないので、公共交通を駅南口へ集約した方が良いのではないかと。 (他同趣旨1件)	新百合ヶ丘駅周辺では、路線バスの発着が南口に集中していることで、バス利用者の利便性・速達性の低下や南北の往来による周辺道路への交通負荷といった課題が生じています。 そのため、公共交通を駅南口へ集約するのではなく、南北の交通広場の適正規模・適正配置等の都市基盤の整備のほか、公共交通機能の適正配分等のきめ細やかな運用により、駅周辺の交通負荷の分散化や回遊性の向上などの交通結節機能の強化を図ります。	D
35	新百合ヶ丘駅路線バスの発着が南口に集約されているので、千代ヶ丘、平尾団地方面から田園調布学園大学方面、またはその逆への乗換に非常に便利であり、公共交通の南北適正配置が求められているといいきれない。		D
36	新百合ヶ丘駅周辺の主要な部分はすでに地権者と小田急により占められており、これから新たな構想を加えるのは非常に難しいのではないかと。そこで、現在のバスロータリー部分を、ペデストリアンデッキ部分に移し、空いたスペースを市民利用空間に共することを提案する。 中間部が出来ることにより、各機関を結ぶ人の流れを高められると同時に、ここを利用し多くの企画や一時避難場所としても活用できる。 現在バスやタクシーなどの流入が1方向しかなく非常に交通の流れが良好ではないが、バス・タクシー等の進入立体化と同時に少なくとも2方向からの接続と、主要道路への接続を図れば、交通状態の改善も大幅に行える可能性が出てくる。	新百合ヶ丘駅周辺では、路線バスの発着が南口に集中していることで、バス利用者の利便性・速達性の低下や南北の往来による周辺道路への交通負荷といった課題が生じています。 このため、駅周辺においては、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置等の都市基盤の整備のほか、公共交通機能の適正配分等のきめ細やかな運用により、駅周辺の交通負荷の分散化や駅へのアクセス性・乗換利便性・駅周辺における回遊性の向上などの交通結節機能の強化を図ります。	D

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
37	「4 分野別の取組の方向性 交通体系 (1) 交通環境を改善する基盤の整備1」の中で、駅周辺においては、既存道路の改良・拡充とあるが、現実的に拡充の余地があるのか説明してほしい。拡充できないと思うので、既存道路の右折レーンの延長等と修文した方がよい。また、駅南北の公共交通の適正配分等のきめ細やかな運用により、は、これで交通混雑が解決するのか、理解し難い部分もあり削除した方がよい。	駅周辺における既存道路の改良・拡充の一例としては、トゥエンティワンビル前の公共空間を活用し、一般車乗降場の整備を行うことで、北口駅前広場の交通混雑緩和に取り組んでいます。 また、新百合ヶ丘駅周辺では、路線バスの発着が南口に集中していることで、バス利用者の利便性・速達性の低下や南北の往来による周辺道路への交通負荷といった課題が生じています。 そのため、公共交通を駅南口へ集約するのではなく、南北の交通広場の適正規模・適正配置等の都市基盤の整備のほか、公共交通機能の適正配分等のきめ細やかな運用により、駅周辺の交通負荷の分散化や回遊性の向上などの交通結節機能の強化を図ります。	D
38	まちづくり方針の中で、緑の多いウォーカブルなコンパクトシティをめざすとあるが、さらに環境面を重視し、スマートシティ化をめざしてほしい。ポートランドのように駅周辺での私用車の利用を制限するために、商業移設の共同配送ヤードの設置、パークアンドライドの導入、坂の多い駅周辺を循環する新交通システムの導入などが考えられる。	駅から離れた地域からの駅アクセスを確保するため、路線バスや多様な交通手段（シェアサイクル等の自転車利用やデマンド交通）の導入促進を図るとともに、駅前広場等におけるこれらの受け入れ体制の確保をめざします。 いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	B
39	新百合ヶ丘駅北口から新百合ヶ丘総合病院までの無料送迎バスの運行をしてほしい。 より住みやすいまちにするには、高齢者による車の運転率、事故率、また交通費による経済的な負担を軽減するため、駅からの無料送迎バスは不可欠だと思う。	新百合ヶ丘駅の特性や今後の駅利用者数の増加を見据えて、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざしていきます。	D
40	駅周辺（特に北側テニスクラブ周辺）の路駐が問題になっている。 駅に対しての駐車場スペースの確保を検討いただきたい。市役所の駐車場の入口でも土日は満車で渋滞を起こしており、今後商業地の拡大を行う場合、車の受け入れスペースに配慮いただきたい。	新百合ヶ丘駅の特性や今後の駅利用者数の増加を見据えて、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざします。 なお、駐車対策については、駅周辺の路上駐車に対して、適正な駐車場利用を促すとともに、駐車需要を発生させる一定規模以上の建築物に対しては、「川崎市建築物における駐車施設の附置等に関する条例」に基づいた協議・指導を行っていきます。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
41	南口駅前広場は、駅の送迎車両のほか、周辺の商業施設の駐車場利用もあり混雑しているため、改善してほしい。 (他同趣旨2件)	駅南側においては、南北の路線バスの集中や駅直近を通過する交通の影響により混雑が生じていることから、周辺の幹線道路の整備進捗を図るとともに、将来の横浜市高速鉄道3号線の延伸を見据えて、南北の交通広場の適正配置、交通機能の適正配分などにより、駅のアクセス性の向上を図ります。 なお、南口駅前広場については、周辺商業施設の入出庫利用もあり、一部時間帯において混雑が生じている状況ですが、引き続き状況を注視しながら、関係部局と連携して適切に対応していきます。 また、いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	B
42	19Pの交通体系にも記載はあったが、新百合ヶ丘駅周辺の平日夕方、土日の慢性的な渋滞が街の機能を著しく低下させている。私の意見としては南口ロータリーは二層化し、現在の歩行者ゾーンに隣接する部分を全て一般車ロータリーにするか、大きな広場or野外イベント会場にしてマルシェや地域イベント者へ場所を貸し出すというと思う。		B
43	南口広場からの取り付け道路を拡幅整備する。9号線には停車帯を整備し、円滑な交通を確保。スポーツセンター入り口交差点の取り付け部を含む改良を行う。南口の駅前から上麻生2丁目に向かデッキに自転車通行路を設置する。		B
44	上麻生2丁目のシーサース周辺の道路が狭いのに車で混雑している。徒歩でも危ないと感じるのでなんとかしてほしい。		B
45	駅前から新百合山手への歩道のアップダウンがきついことから高齢者の方が苦勞して通行しており、歩道の幅が狭いため追い越すこともできず人の渋滞が発生している。これからは車中心ではなく人中心のまちづくりを志向するべきと考えられ、交通渋滞対策だけではなく北口エリアの歩行者の利便性・快適性の抜本的対策を希望する。	駅北側においては、交通環境の改善に向けた早急な対応が必要なことから、本まちづくり方針（案）に示した戦略的誘導エリアを中心とした一体的かつ効果的なまちづくりを先行的に検討することとしております。また、検討にあたっては、交通環境の改善等に向けて、高度利用されていない土地や駅前商業施設等と隣接する区役所や交通広場等の公共施設の敷地との連携を検討し、必要な都市基盤整備等を図ります。 また、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
46	駅周辺の道路だけを整備しても、駅へ繋がる世田谷町田線が改善されない限り駅周辺の混雑緩和はできない。世田谷町田線の整備を進めてほしい。 (他同趣旨5件)	本市の幹線道路の整備については、効率的・効果的な道路整備を推進していくため、「第2次川崎市道路整備プログラム（平成28年度から令和11年度）」に基づき、客観的な指標などを用いて整備効果の高い箇所を選定することにより、整備箇所の重点化を図りながら取組を進めております。 また、同プログラムの令和4年度から令和11年度までの後期に取組については、基本的な考え方として、事業効果の早期発現のため、主要交差点などの先行整備をめざすこととしております。 世田谷町田線については、麻生区内では、片平、上麻生Ⅰ期・Ⅱ期の3工区で事業を推進しており、特に、麻生警察署前交差点から柿生駅北口バス停付近に至る片平、上麻生Ⅰ期の両工区については、整備に必要な用地が全て確保されたことから、現在、令和7年度までの完成に向けて道路拡幅整備工事を進めておりますが、事業効果の早期発現に向け、交差点などの混雑箇所における付加車線の整備など、暫定的な混雑緩和対策を進めており、令和6年2月に片平交差点、令和6年10月に上麻生交差点の車線を広げる整備が完了し、現在、柿生交差点の線形を改良する整備を進めております。	B
47	道路という基本インフラは50年いや100年先を見て余裕をもって整備していく必要があると、強く思っている。	本市の幹線道路の整備については、効率的・効果的な道路整備を推進していくため、「第2次川崎市道路整備プログラム（平成28年度から令和11年度）」に基づき、客観的な指標などを用いて整備効果の高い箇所を選定することにより、整備箇所の重点化を図りながら取組を進めております。 麻生区内では、世田谷町田線の片平、上麻生Ⅰ期・Ⅱ期の3工区で事業を推進しており、特に、麻生警察署前交差点から柿生駅北口バス停付近に至る片平、上麻生Ⅰ期の両工区については、整備に必要な用地が全て確保されたことから、現在、令和7年度末までの完成に向けて道路拡幅整備工事を進めております。	B

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
48	万福寺王禅寺線を二車線化。更には平尾から柿生方面（古沢経由）で新しくトンネルや道を作る。大幅な渋滞解消ができると思う。	万福寺王禅寺線については、新百合ヶ丘駅周辺の交通を処理するための幹線街路として昭和51年に都市計画決定され、昭和61年に整備完成しております。また、沿道の土地利用状況からも、拡幅は困難ですが、周辺の都市計画道路の整備進捗を踏まえるとともに、渋滞の状況を注視しながら、渋滞の緩和に向けた可能な方策について検討していきます。	D
49	人が自分の都合で自由に移動できることが望ましい。2023年7月の道路交通法改正により、「特定小型原動機付自転車」が新設されたが「仮称・新百合シニアカー」のような小型モビリティを開発し、安価に供給することで通行環境を実現できるのではないかな。	人中心のウォーカブルなまちづくりに向けて官民連携したオープンスペースの創出等やこれらを支える多様な交通モードの導入を図ります。 また、駅から離れた地域からの駅アクセスを確保するため、路線バスや多様な交通手段（シェアサイクル等の自転車利用やデマンド交通）の導入促進を図るとともに、駅前広場等におけるこれらの受け入れ体制の確保をめざします。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	B
50	ウォーカブルという言葉が使われているが、意味がよくわからない。歩くことが可能という意味であれば、現在の街でも問題なく歩ける。意味のわからない造語を使うのはよくないので、一般的な言葉で表現してほしい。	ウォーカブルとは、国土交通省が提唱するwalk（歩く）とable（可能）を組み合わせた造語であり、「居心地がよくなる歩きたくなるまちなか」と定義され、全国各地で取組が進められています。 人中心のウォーカブルなまちづくりに向けて官民連携したオープンスペースの創出等やこれらを支える多様な交通モードの導入を図ります。なお、本編巻末の参考資料「参考2 まちの事例集」に駅前空間のウォーカブルなまちづくりについて事例を掲載しています。	D
51	小田急線の踏切を解消してほしい。 (他同趣旨1件)	小田急線については、国土交通大臣の諮問機関である交通政策審議会において、登戸駅～新百合ヶ丘駅間の複々線化が位置付けられていることから、神奈川県内の自治体や経済団体で構成される「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」において、複々線化の要望を行っています。	D
52	小田急線の複々線化の延伸について、現在、登戸まで複々線化されているが、将来、延伸する可能性があるかと思う。その場合の対応も心積もりには入れておいてほしい。		D

3 交通体系について(192件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
53	駅へのアクセスを検討する面から、ヤオコー側に出られるように新百合ヶ丘駅の改札口を小田原側（駅西口）に増やすことは検討できないだろうか。	駅改札については、鉄道事業者が整備するものですが、駅周辺のまちづくりの進捗を踏まえながら、適時適切なタイミングで鉄道事業者等と意見交換していきます。	D
54	将来的には新百合ヶ丘駅西口改札(仮)を開設し、南口のイオン、昭和音楽大学方面から再開発による新築ビル等へ直結すれば、よりコンパクトに街の回遊性が高められる。		D
55	アコルデ北館駐車場付近やイオンに直接つながる改札口を設けるなど、駅の改札が1ヶ所に集中しているので増やしてもらいたい。		D
56	地下鉄3号線の延伸を見据え、新百合ヶ丘駅の地下に広い南北自由通路を整備し、地下にも小田急と地下鉄の改札口を設置し、乗換の動線を確保するよう要望する。	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の駅位置については、新百合ヶ丘駅南口付近としており、現在のところ北口側に地下で接続する計画はありません。 また、駅改札については、鉄道事業者が整備するものですが、駅周辺のまちづくりの進捗を踏まえながら、適時適切なタイミングで鉄道事業者等と意見交換していきます。	D

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	新百合ヶ丘の魅力であるみどりをまちづくりに生かしてほしい。 (他同趣旨20件)	緑あふれる潤いある都市環境の整備に向けて、新百合ヶ丘の魅力である駅周辺の豊富な緑を活かすとともに、駅至近の土地利用計画等にあたっては、周囲の緑と連続した「一体的な緑」の風景を創出するなど、まち全体を緑豊かに印象づける緑の空間形成をめざしていきます。	B
2	独特の文化である里山を活かしながら新たな緑との連携、駅前広場や道路を利活用可能なオープン空間（広場）などの創出を期待している。	新百合ヶ丘の魅力である駅周辺の豊富な緑を活かすとともに、官民連携した緑やオープンスペース等の創出により、様々な世代の交流を促進する場や、居心地の良い駅前空間の形成をめざしていきます。	B
3	取り組みの方向性として挙げられているJR熊本駅ビルや立川のGREEN SPRINGSのような吹き抜けと滝のある開放感と緑を感じるような空間が新百合ヶ丘にも出来たらとても嬉しいし住民として誇らしい。	緑あふれる潤いある都市環境の整備に向けて、植物や自然光、水などの自然環境の要素を取り入れた「バイオフィリックデザイン」等による、人が自然を近くに感じることができる空間形成の誘導や、様々な世代が憩える緑豊かな滞留空間の創出を図るなど、新百合ヶ丘の魅力である緑の継承と進化により、個性と魅力にあふれたまちづくりをめざしていきます。	B
4	緑あふれる環境の良さも新百合ヶ丘の強みだと思う。 参考事例としてまちづくり方針に記載のある熊本駅のアミュプラザのような世界観をまち全体で表現して10倍20倍のスケールで再現できれば、「世界に誇れる新百合ヶ丘」の実現も可能と思う。		B
5	屋上緑化、壁面緑化や沿道緑化などを取り入れ、新百合ヶ丘駅周辺がさらに緑豊かな地域になることを願っている。		B
6	空間に占める“緑”の影響度、メンテナンスのしやすさ（ランニングコスト）、そして最大の課題でもある具体的に誰が管理するか、今年の川崎都市緑化フェアを鑑みると十分な事前検討が必要である。 川崎都市緑化フェアは、“緑”の捉え方に驚いたものの、技術的な面において次世代の“緑の在り方”のヒントになる点も多い。 次世代エネルギーを利用することによる壁面緑化、屋上緑化等については大きな可能性がある。		B

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
7	駅周辺にオープンカフェやベンチ、広場等が増えると、ファミリー層をはじめ若者から高齢者までが、快適に心地よく過ごせるようになると思う。 (他同趣旨5件)	官民連携した緑やオープンスペース等の創出により、様々な世代の交流を促進する場や、居心地の良い駅前空間の形成をめざしていきます。	B
8	南口デッキ上の緑が、数年前に水路などを塞いで再整備してから、今まで以上に南口デッキにおける人々の座ってゆっくりできる数少ない場所となっており、今後のまちづくりでもこういう場が残ると良い。		B
9	イオンとコナミスポーツの間の空間（通路）にベンチ等を設置し、憩いの場を増やしてほしい。また、コンクリートが汚れていることから地域活動としてボランティアを募り、高圧洗浄機等で清掃することで、新百合ヶ丘駅周辺がより綺麗になると思う。	緑あふれる潤いある都市環境の整備に向けては、緑やオープンスペース等の創出により、様々な世代の交流を促進する場や、居心地の良い駅前空間の形成をめざすとともに官民連携による駅中心部の緑の連続性の創出により、駅周辺の緑のネットワークの強化を図っていきます。 また、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備を図るため、デッキ等による高低差の解消及びバリアフリー化など安全で快適な歩行環境の形成を図ります。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
10	誘導や官民連携だけでなく市の資産として、子供連れ家族や高齢者が休憩できるようなベンチ等を増やしてほしい。カフェ等の商業施設でお金を出さなければ休憩もできないようなまちは、このような世代にとっては厳しい。 緑を活用した快適かつ高質な空間を、市の資産としての「憩いの場」として確保してほしい。 緑のネットワークの強化として、並木道や緑道の整備等を実施して、「にぎわい核」からのアクセスが安全に楽しくできるようにしてほしい。 立体化される場所には、十分なエスカレーターやエレベーターの設置をお願いしたい。		C
11	万福寺さとやま公園の電灯が少なく夕方以降は怖い場所になっている。電灯を増やしてほしい。	公園内設備の増設等の御意見については、公園の再整備等に合わせ、いただいた御意見を参考にしながら取り組んでいきます。	C

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
12	檜山公園の治安が良くない。	公園・緑地等の維持管理や利用ルール・マナーに関する周知・啓発等については、引き続き取り組んでいきます。 いただいた御意見については、今後の公園管理運営等の参考にさせていただきます。	C
13	山口台白山公園の広場横の木が生い茂っているエリアは改善してほしい。治安も良くない。 白山公園内の既存の階段は使い辛いので、木が生い茂っているエリアでの階段の建設や自転車も通れる道路を作してほしい。		C
14	公園の落ち葉を入れるコンポストの設置、スズメバチ、葛の対策、ゴミ・タバコのポイ捨て、バイク、自転車の乗り入れ・駐輪、深夜の騒ぎの規制など公園や緑地等の適切な維持管理を行ってほしい。 (他同趣旨 4 件)	公園の利用ルール・マナーに関しては、ごみのポイ捨てや火気使用の禁止等について、看板設置により利用者へ周知・啓発をしており、引き続きマナーの向上に取組を進めます。なお、タバコのポイ捨てに関しましては、現在、公園内の原則禁煙化に向けて、条例改正等に取り組んでいます。	D
15	ふるさと緑地の緑に、もう少し手を入れて明るく居心地良い場所にしてほしい。駅周辺には緑が少ないので、ふるさと緑地と連携できるような広々とした綺麗な緑の空間を設けてほしい。	公園緑地の立地特性や地域ニーズ等を踏まえた、都市の価値を高め、魅力ある公園・緑地づくりを進めるとともに、官民連携した緑やオープンスペース等の憩える滞留空間の創出により、様々な世代の交流を促進する場や、居心地の良い駅前空間の形成をめざしていきます。	B
16	高齢者も子育て世代も楽しめるまちとなるには、公園などの緑豊かで潤いのある広い場所が近くにあると良い。		B
17	未就学児や子供が遊び辛いので、遊具等を備えた綺麗で魅力的な公園にしてほしい。 (他同趣旨 2 件)		B
18	緑の活用は重要なので、管理されて使いやすい緑を増やしてほしい。 (他同趣旨 2 件)		B

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
19	檜山公園の緑を活用し、そこから散歩が出来るようにする（街灯を増やし、もう少し木を伐採して見通しが良く安全な公園にすること、日が入ること芝生も生える）。	まちの新たな魅力の創出等をめざし、現在進めている万福寺檜山公園の有効活用に向けた取組にあたり、いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
20	賑わいのある街にある緑は大抵管理された中で綺麗な花を見たり、自然を楽しみながらのBBQだったり、地元林業の方とコラボレーションした木工工作のおもちゃであったりかと思う。 親は安心して遊ばせられる場所、自分たちの居心地のいい場所（カフェなど）、子供は伸び伸びと大きな遊具や広い多目的広場で地域クラブ活動などで楽しむ場所が理想である。 こういった点から、1か所でいいと思うので、大規模な公園整備をすべきだと思う。 維持管理がされていない小公園は管理費が無駄なので、なくした方がよいと思う。コンパクトシティ化にもつながると思う。	公園緑地の立地特性や地域ニーズ等を踏まえた、都市の価値を高め、魅力ある公園・緑地づくりを進めるとともに、官民連携した緑やオープンスペース等の憩える滞留空間の創出により、様々な世代の交流を促進する場や、居心地の良い駅前空間の形成をめざしていきます。 また、公園・緑地等を活用した地域活動等の取組を促進し、にぎわい創出を図りながら、新百合ヶ丘の魅力である緑を活かしたまちづくりを進めます。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C
21	川崎市内の公園には、「中途半端」な規模や内容のものが多く、魅力的で長時間過ごせる場所が少ないと感じる。 これに対し、隣接する稲城市や、町田市には、親子で長時間楽しめる公園があり、地域住民にとっての満足度が高い。 新百合ヶ丘駅周辺には、大規模かつ多機能な公園の設置を提案する。 具体的には、広い芝生エリア、大型遊具、自然と触れ合えるスペース、スポーツやピクニックが楽しめる場所を備えた公園がほしい。 また、麻生区ソーシャルデザインセンターなど、地域で活動する団体とともに季節ごとのイベント開催や動植物と触れ合う企画を取り入れることで、市民の利用頻度を高めることができると考える。		C

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
22	麻生区に残された緑地を後世に残して欲しい。新しい建築物は、なるべく高層を避け、まちと共に成長する植樹を行ってほしい。 また、壁面緑化は、CO2の削減効果を期待できるものではなく、かえって無駄な設備投資を必要とするのでやめてほしい。	緑あふれる潤いある都市環境の整備について、大規模土地利用計画等における緑豊かな空間形成や、公共空間を活用した市民協働による花壇整備など、官民連携による様々な取組を進めることにより、新百合ヶ丘の魅力の一つである緑の継承と進化をめざしていきます。	D
23	新百合駅周辺の街づくりに伴い、再開発が進むと思うが、万福寺地区の緑地や公園、田園風景の残る古沢、地下鉄新駅設置の周辺部に残る王禅寺の日吉地区、稗原や水沢地区などの自然や緑地をなるべく現状に近いかたちで保全してほしい。	新百合ヶ丘駅周辺や3号線の延伸に伴い新駅の整備が予定される王禅寺エリアや虹ヶ丘エリアのまちづくりに向けては、豊かな自然環境等の地域資源を活かした計画的なまちづくりにより、さらなる魅力の向上をめざしていきます。 なお、再開発等の具体的な計画は決まっておりませんが官民連携による豊かな緑空間の形成に向けて、駅周辺の既存の豊富な緑について、近隣の土地利用計画等と連携を図りながら、積極的な活用を検討していきます。	B
24	近年実証実験といったイベントが増え、賑わいを感じる。今後も公園の有効活用期待している。	公園・緑地を活用したにぎわいの創出に向けては、地域の特性に応じた多様なニーズに対応していくことが必要と考えています。 引き続き、公園・緑地を活用したイベント等を通して、地域の皆様とにぎわいの風景を共有しながら地域ニーズの把握に努めるとともに、公園・緑地等を活用した地域活動等の取組を促進し、緑のネットワークの充実をめざしていきます。	B
25	公園に求めているものは決して「賑わいの創出」ではなく「静寂の維持」である。 賑わいは商業施設だけにして欲しい。今年度は檜山公園で実証実験というものが行われ、その度に騒音の被害に遭ってきた。	新百合ヶ丘駅周辺の魅力である公園・緑地等の公共空間を最大限にいかし、まちの将来に向けて新たな魅力を創出するため、万福寺檜山公園等の利活用に関する実証実験を進めているところです。今後も、騒音の低減等、近隣の皆様への配慮を十分に行いながら、取り組んでいきます。	D
26	みどりを回遊できるイベントがあると健康増進に繋がるので良い。	新百合ヶ丘の魅力である豊かな緑の連携強化に向けて、公園や緑地等を活用した地域活動等の取組を促進し、緑のネットワークの充実をめざしていきます。	B

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
27	緑のネットワークが具体的にどうなるのか気になる。	官民連携による駅中心部の緑の連続性の創出や、公園・緑地等を活用した地域活動等の取組を促進し、にぎわい創出を図りながら、各公園・緑地等の連携を強化し、緑のネットワークの充実をめざします。	D
28	『緑』と言った時、新百合ヶ丘駅からほど近い麻生川へのアクセスや麻生川沿いの遊歩道整備等が視野に入っていないように見受けられる点がとても残念に感じた。 将来的には、例えば世田谷区や調布市あたりの野川沿いの遊歩道を参考に麻生川沿い遊歩道が整備されて行くと、今回方針(案)策定目的にも適うより魅力的なまちづくりに繋がると思う。	緑あふれる潤いある都市環境の整備については、官民連携による駅中心部の緑の連続性の創出、麻生川を含めた駅周辺の緑のネットワークの強化や公園緑地等を活用した地域活動等の取組を促進し、にぎわい創出を図るなど、ハード整備だけでなく、様々な取組により、麻生川を含めた駅周辺の緑のネットワークの充実をめざしていきます。	D
29	エネルギーの供給についても新たな施設の再生エネルギーの生産、コジェネの促進など市SDGsのモデルとなるような新たな街のコンセプトに取り組んでほしい。	気候変動の影響は市民生活に大きな影響である差し迫った課題であることから、本市では、2022年3月に地球温暖化対策推進基本計画を改定し、2050年の脱炭素社会の実現に向け取組を進めています。当該計画を踏まえ、本まちづくり方針においても、グリーンインフラなどによる緑陰や蒸発効果などの緑や水が有する暑熱対策機能を活用した快適な歩行空間の形成するなどとしており、2050年の脱炭素社会の実現をめざした取組を進めていきます。	D
30	パリ協定の2050年カーボンニュートラル、カーボンオフセット、地球温暖化ガスの排出量ゼロの都市化の前倒し、先取りが必要である。		D
31	太陽光発電やミニ風力発電など再生可能エネルギー地産地消にも企業の御協力を得るなど先進地区としてリードし、新百合を誇れる街にしてほしい。		D
32	多様化する次世代エネルギーの供給、次世代エネルギー完備を象徴的になる施策も検討すべきである。		D

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
33	明るく清潔感のある改装、駅前の整備が必要である。駅周辺の緑化に加え、改装、徹底した清掃も必要(綺麗だとより人は汚しにくいと思う為)。特に駅構内と北口南口ロータリー、トイレの清掃も力を入れてほしい。 駅中のタイルを明るい色の物にし、駅前の床も明るくクリーンになると『変わった』感じがする。	新百合ヶ丘駅南口広場は、月1回団体のボランティア活動と行政が連携して清掃を行っています。引き続き、効率的で効果的な手法等を検討するなど適切な維持管理を行っていきます。 いただいた御意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。	C
34	トンネル側道のゴミが溜まっている。ボランティアだけでなく市もきれいにすべきである。	道路清掃につきましては、各道路の状況に応じた適切な対応に努めているところですが、今後も引き続き、地域の皆様とも連携を図りながら、道路の安全な交通環境の支障とならないよう適切な維持管理に努めていきます。	D
35	街路灯を暖色に変更してほしい。 津久井道や檜山公園のような暖かみのある街灯を駅前のデッキにも採用してほしい。	新百合ヶ丘駅周辺地区は、良好な景観形成の誘導を図ることを目的として景観計画特定地区等に指定し、景観形成方針・基準を定めています。基準では「あかりのデザイン」として、「原則として色温度の低い暖かな照明を使用する。」と定めており、当地区で使用する街路灯については、基準に合った照明にするよう誘導しています。	D
36	東京電力の送電鉄塔を景観形成基準に沿うように変更してほしい。	新百合ヶ丘駅周辺地区内で鉄塔等の工作物の建設等を行う場合は、景観法に基づく届出等の対象となり、色彩等の景観形成基準を満たすよう指導を行っています。	D
37	百合ヶ丘方面の道路が暗いので、街灯を増やしてほしい。 (他同趣旨 1 件)	道路照明灯は、国が定めた道路照明施設設置基準により、道路幅が広く交通量の多い一般国道や県道、主要幹線道路で、信号機の設置された交差点や横断歩道などに設置しております。 また、防犯灯の設置にあたっては、町内会等からの要望に基づき、場所等の基準を満たしたものについて、市がLED防犯灯を設置する取組を進めています。	D

4 都市環境について(74件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
38	「新百合ヶ丘地区緑化推進重点地区計画」との整合を図り、緑のつながりを作ってほしい。	本まちづくり方針では、取組の方向性として官民連携による豊かな緑空間の形成に向けて、公共空間の積極的な緑化や既存の緑の積極的な活用、また、都市軸の充実として、駅中心部の緑の連続性の創出による駅周辺の緑のネットワークの強化を図ることとしており、「新百合ヶ丘地区緑化推進重点計画（基本方針①水と緑の回廊づくり、②多様な緑づくり、③緑を楽しむ仕組みづくり）」とも整合を図りながら、緑あふれる潤いある都市環境の整備に取り組んでいきます。	B
39	木質化や緑化など自然を意識したまちづくりを進めてほしい。	駅中心部の屋上緑化・壁面緑化等の民有地の緑化や幹線道路・緑道の街路樹整備などの官民連携した緑の創出を図るため、緑に彩られた都心の風景の創出、居心地がよく歩きたくなる緑に囲まれたまちなみの形成など、緑あふれる潤いある都市環境の整備に取り組むこととしています。 また、本市では、国産木材の良さのPR及び市民の国産木材利用に関する意識向上を図り、国産木材利用の促進に寄与することを目的として、多くの市民等が利用する建築物等において、木質化により国産木材を積極的かつ効果的に活用する取組を進めています。この取組の一環として、今年度新百合ヶ丘駅南口駅前広場において、沿道の民間事業者の協力のもと駅前広場の一部木質化を実施しました。 引き続き、公共建築物における木質化や民間建築物に対する木質空間への改修補助などにより、木材利用促進の取組を進めていきます。	B
40	キッチンカーがあると良い。	オープンスペースや公園・緑地の活用による多世代の交流が可能な地域コミュニティの場の形成などの取組を進めていきます。 いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	C

5 都市防災について(15件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	災害時の安全性が心配なので、災害に強いまちづくりを進めてほしい。 (他同趣旨2件)	災害時における都市の防災性の向上に向けて、建物の耐震化の促進等による地区全体の防災性の向上、防災性の高い交通ネットワークの形成及び、災害時に備え官民連携した取組等を推進することで、市北部の広域拠点にふさわしいまちづくりを進めます。	B
2	津久井道（世田谷町田線）新百合ヶ丘駅入口信号から新百合ヶ丘駅北口に通じる道路が狭く慢性的な渋滞に悩まされている。 特に消防署から万福寺方面に向かう緊急自動車はサイレンを鳴らしているにもかかわらず、通過に数分かかることも少なくない。道路の改善を希望している。	駅周辺の交通環境の改善に向けて、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置に向けた取組を進めるとともに、区役所や消防署等の防災関連施設の適正な更新時期を見据えた建替えに合わせて、緊急輸送道路に位置付けられる県道世田谷町田へのアクセス性の向上を図るなど、災害時における都市の防災性の向上をめざします。	B
3	当該エリアは緊急車両の通行も多く、安全かつ迅速な出動が叶う道路幅の確保が実現出来ればと思う。		B
4	災害が起きる前に道路拡張をしてほしい。		B
5	区役所、消防署などの建て替えに際しては、世田谷町田線とのアクセスを考慮すると共に、緊急給水設備やマンホールトイレなどの設備も充実させてほしい。	駅周辺の交通環境の改善に向けて、道路の改良・拡充や南北の交通広場の適正規模・適正配置に向けた取組を進めるとともに、区役所や消防署等の防災関連施設の適正な更新時期を見据えた建替えに合わせて、緊急輸送道路に位置付けられる県道世田谷町田へのアクセス性の向上を図るなど、災害時における都市の防災性の向上をめざします。 いただいた御意見については、防災性の向上に向けた、今後の検討の深度化において、参考とさせていただきます。	C
6	災害時に備えて避難場所をしっかりと作ってほしい。	災害時に備えた取組の推進については、行政施設を中心に駅至近の商業施設等の民間施設とも連携を図りながら、帰宅困難者の一時滞在施設の確保、災害時の物資の確保や交通機関の運行情報の伝達手法の検討など、災害時に備えた取組を官民連携して進めます。	B

5 都市防災について(15件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
7	公共施設周辺の土地利用転換については、避難場所（一時避難等）と復旧復興拠点を区別して検討を進めてほしい。避難者と避難者以外の対応は全く異なるので、それらが近接配置されている場合、それぞれの業務に支障が生じる。	区役所等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざしていきます。 いただいた御意見については、災害時に備えた取組に関する、今後の検討の深度化において、参考とさせていただきます。	C
8	再開発等の機会を捉え、防災設備の増強を行う必要がある。具体的には、帰宅困難者の一時滞在施設の確保の際には、非常用電源（自立型停電対応システム含む）や防災備蓄品の設置を行う。 脱炭素・SDGs推進に資する太陽光発電システムや蓄電池等の再生可能エネルギー等を導入し、災害時の電力供給を確保してほしい。これにより、地域のエネルギー自給率を高め環境負荷の軽減にも寄与する。	駅至近の大規模な土地利用計画等の際には、帰宅困難者の一時滞在施設の確保、災害時の物資の確保や交通機関の運行情報の伝達手法の検討など、災害時に備えた取組を官民連携して進めるとともに、建物等については、災害に強い先進的な構造等の防災効果の高い取組を積極的に誘導していきます。 いただいた御意見については、災害時に備えた取組に関する、今後の検討の深度化において、参考とさせていただきます。	C
9	防災に力を入れてほしい。各マンションが自主防災に力を入れるよう支援してほしい。 (他同趣旨1件)	本まちづくり方針では、「災害時における都市の防災性の向上」を掲げており、防災性の高い交通ネットワークの形成、建物の耐震化の促進等による地区全体の防災性の向上及び、災害時に備え官民連携した取組を推進していきます。 また、自主防災組織の育成、民間企業との連携、防災訓練や研修等による、自助・共助（互助）・公助の取組・連携の強化や各主体の防災意識の向上により、地域防災力の向上を図っていきます。	B
10	官民連携だけでなく、市の資産としての避難所や物資の確保を実現して、災害からの安心・安全を確保していただきたい。	本市では、「川崎市備蓄計画」をもとに、自助・共助（互助）を基本に、市民による日頃からの家庭内備蓄を促進するとともに、流通在庫備蓄・救援物資等の考え方を踏まえ、市民・企業・行政が、日頃からの備えや災害時の適切な対策を講じることができるよう、体制の強化を継続して進めています。 いただいた御意見については、今後の検討の参考とさせていただきます。	C

5 都市防災について(15件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
11	地域連携の強化に向けて、自治会・商店街や商業施設等と連携し、防災訓練や防災教育を実施することで、地域全体の防災意識を高めてほしい。これにより、災害時の迅速な対応と地域の安全性向上が期待できる。	毎年、多くの市民・区民を対象として地域団体などと連携した総合防災訓練を実施し、発災初動期から避難所開設・運営までの実践的な訓練や多様な主体が参加した防災啓発活動を実施しているほか、町内会・自治会、企業、学校などを対象とし職員が出向いて講座を行う「ぼうさい出前講座」や地域主体の防災訓練などを通じて防災意識の醸成、対応力強化を図っています。また、町内会・自治会などが災害に備え防災資機材を調達する際は、補助金制度により地域防災力の強化に向けて支援しています。 今後も引き続き、本まちづくり方針に掲げる都市の防災性の向上に向けて取り組んでいきます。	B
12	大規模な帰宅難民や被災者の避難場所として、公共施設や公園、広場が想定されるが、駅周辺の大規模施設と公園、緑地は、最初から災害時を想定して、定期的な運用の訓練や見直しも計画しておくことが必要である。 区役所は、住宅地における防災対策として、自治会や避難所である学校との連携を日常的に支援することが重要である。区行政が支援して、学校と自治会の関係を円滑に取り持ってほしい。	区内の公立小中学校は災害時の避難所に指定されており、年1回以上、各避難所では地域の自主防組織や学校関係者が参加した「避難所運営会議」を実施し、顔の見える関係づくりや避難所運営で必要な事項の検討や実働訓練を通じて、必要な情報を共有し、団体間の関係構築を図っています。 いただいた御意見については、今後の検討の深度化に向けて参考とさせていただきます。	C

6 公共施設について(65件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	区役所、市民館、図書館等の公共施設について、老朽化や利便性等の課題があるので、検討してほしい。(他同趣旨25件)	区役所、市民館、図書館等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざしていきます。	B
2	公共施設の更新にあたっては、地域や専門家の意見を取り入れるなど、計画段階から取り組んでほしい。(他同趣旨2件)	区役所等の高経年化が進む公共施設については、様々な機会を捉え、多角的に市民等の意見を伺いながら、取り組んでいきます。	B
3	消防署は狭い道路に面していないなど、災害時でも渋滞時でも安心できる場所にあると良い。(他同趣旨1件)	消防署等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざしていきます。 また、区役所や消防署等の防災関連施設の適正な更新時期を見据えた建替えに合わせて、緊急輸送道路に位置付けられる県道世田谷町田へのアクセス性の向上を図るなど、防災性の高い交通ネットワークの形成をめざします。	B
4	公共施設について、40年で建替える必要が本当にあるのか。既存の施設を延命して運用すべきではないか。(他同趣旨1件)	供用開始後42年が経過する区役所等の高経年化の状況や、本市の資産マネジメントの取組等を踏まえるとともに、まちづくりを一体的かつ効果的に進めるため、駅周辺のまちづくりと連携を図りながら、公共施設のあり方についても検討することが必要と考えています。また、駅周辺のまちづくりや公共施設に関して、将来を見据えた駅北側の再整備、駅周辺道路の渋滞対策や区役所の高経年化等を踏まえたまちづくりの早急な検討等の意見が市民等から寄せられていることも踏まえ、公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討を行うこととしています。	D

6 公共施設について(65件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
5	市の公共施設は老朽化しているとともに、新百合ヶ丘の街のテーマ（芸術や緑）に沿っていない。更新の検討が急務である。	本まちづくり方針（案）では、市北部の広域拠点にふさわしい「にぎわい核」の強化として、民間活力を活かした都市機能の充実等を掲げています。また、区役所等の高経年化が進む公共施設についても、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討することとしており、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざしていきます。	B
6	区役所を駅から遠くに配置する、現区役所敷地有効活用することにより、賑わいや魅力あるスペースを整備すると良い。 (他同趣旨1件)	区役所等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざすこととしていますので、公共施設の適正な配置についても、その中で検討していきます。 また、各施設の内容については、基本的考え方の内容を踏まえて、今後検討していきます。	D
7	市民館と図書館を中心に、だれでも集える大きな広場を据えてほしい。「消費」を中心に据えるのではなく、「文化」を中心に、人が思いや楽しいことを共有する、地域の文化を継承する、様々な文化・芸術の発信地になってほしい。 (他同趣旨1件)		D
8	図書館や市民館は、行政が運営するサービスなので、文化施設であると共に、行政サービス、特に福祉、医療、介護、防災などを連携させることができる。図書館、市民館の機能を見直し、区役所の中ではできない、地域とのつながりや協働など、顔の見える関係作りを期待する。 (他同趣旨1件)		D
9	公共施設は複合的にしてほしい。 (他同趣旨1件))		D
10	区役所、消防署が合同が良い。 (他同趣旨1件)		D
11	公共施設と商業施設の複合ビルが良い。 (他同趣旨1件)		D

6 公共施設について(65件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
12	北口周辺は、区役所などの公共施設、公共用地が広くあり、また万福寺などの団地が形成されている。南口周辺にも大きな公園が二か所あり、住宅展示跡地も利用でき、武蔵小杉や川崎駅などと比較にならないほどの用地の余裕がある。公共施設の再配置のタイミングを大いに利用し、環境都市を住民の協働事業として取り組むべきである。	区役所等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざすこととしていますので、公共施設の適正な配置についても、その中で検討していきます。 また、各施設の内容については、基本的考え方の内容を踏まえて、今後検討していきます。	D
13	区役所建物を建て替えるのであれば、行政機関はひとまとめにして現在の合同庁舎エリアに集約する。区役所と税務署等が駅の真反対にあるのは縦割りの弊害である。現区役所エリアは北口駅前広場の一部として活用する。		D
14	南口地域の住民は北口に区役所があり、医療診療所も南口、北口に適度に分散、商業等が駅周辺にまとまっている現在のまちの姿にはコンパクトで暮らしやすさを感じている。どうしても、区役所を移転するのであれば、駅上に蓋かけした形で南北広場を整備し、その一角に区役所機能を集約することを提案する。		D
15	消防署がああ場所で活動しにくいのであれば活動しやすい場所へ移設し、当該移転土地も活用して区役所の一部建て替え更新をしていく。		D
16	老朽化した駅前公共施設は、学校跡地等に集約し、移転を検討してほしい。		D
17	麻生区役所が築40年以上経過(旧耐震?)していることから建替により、防災上の観点からも重要であると考え。新たなビルに区役所機能など合同庁舎として集約する。		D
18	公共施設(区役所等)の再編にあたっては、市民が手軽に使用できる、施設(会議室)等を拡充してほしい。		D
19	市役所などの公共施設は現在駅周辺にそれぞれ独立して建っているので、老朽化に伴う建替えによって一か所に複数の機能が集約されると、今後より利用しやすくなると思う。		D

6 公共施設について(65件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
20	新設図書館と芸術文化に係る新設多目的空間との融合、さらにはアートセンターとの連携が図れるとウォークアブルな空間の動線上にこれら知と文化芸術の拠点が展開できる。	区役所等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざすこととしていますので、公共施設の適正な配置についても、その中で検討していきます。 また、各施設の内容については、基本的考え方の内容を踏まえて、今後検討していきます。	D
21	区役所は、高齢者にとっては、駅近くにある方が良い。		D
22	区役所が一等地にある必要はないと思う。		D
23	行政施設がまとまっているのは利便性が高く良い。		D
24	市役所等機能の改修について、現在市役所と消防をはじめとした施設は駅から至近で便利である他方、開発によって交通渋滞に巻き込まれること、申請の電子化等もあり、駅近に必ずしも構える必要はないのではないか。		D
25	消防署や小学校など、駅前一等地にある必要のない施設が商業利用を阻害している。 また、町田消防署が、渋滞の激しい市街地から幹線道路沿いの郊外に移転したように、麻生消防署も尻手黒川沿いに移転し、麻生小も移転するか、最低でも小田急多摩線に平行な通り抜け道路を世田谷町田線に繋げるべきである。		D
26	区役所は古いが、駅の近くでとても助かる。図書館やホールも保育園で利用しているので近くで便利でとても助かる。		D
27	自由に考え、自由に学び、自由に過ごす、自由を保障する場所としての図書館は、知と情報の拠点として、さらに充実してほしい。		D
28	市民館では、地域課題の発見や解決に取り組む市民の学習等の取組をしているので、地域活動に向けた取組一覧の中に、入れてほしい。	本まちづくり方針(案)の「Ⅱ12 地域活動等」については、多様な地域活動の事例を掲載しているものですが、市民館においても、市民との協働により地域課題等の解決に向けた学習機会を通じた取組が実施されていることから、市民館での取組についても事例の一つとして追記します。	A

6 公共施設について(65件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
29	川崎市教育委員会が公表している「今後の市民館・図書館のあり方」では、「行きたくなる」「まちに飛び出す」「地域の”チカラ”を育む」という3つの方向性が示されている。この内容もぜひ新百合ヶ丘のまちづくり方針案の中に埋め込んでほしい。	区役所等の高経年化が進む公共施設については、建替えの可能性も含めて幅広く検討し、令和7(2025)年度に今後の取組の基本的な方向性を示す「基本的考え方」の策定をめざすこととしています。 そのため、市民館・図書館の整備に関する方向性については、基本的考え方の内容を踏まえて、今後検討していきます。	D
30	経年劣化の進んだ公共物は時代に合わせた耐震化や改修は予算の範囲ですべきであり、それに合わせた官庁機能や消防署・警察署の最適配置の検討も大賛成である。ただ、優先順位としてはまず道路拡張が先、人の流れを作るならまず交通インフラからである。	区役所等の高経年化が進む公共施設については、駅周辺の一体的かつ効果的なまちづくりに向けて、高経年化等の課題に的確に対応し、戦略的誘導エリアを中心とした土地利用の検討において、資産マネジメントの取組と連携・整合を図りながら公共施設の建替えの可能性も含めて幅広く検討することとしています。 併せて、駅周辺の道路や交通広場整備等による交通環境の改善、歩車分離による安全で快適かつ円滑な交通環境の整備などの取組を進め、誰もが歩きやすく移動しやすい交通環境の整備に取り組んでいくものです。	D

7 横浜市高速鉄道3号線について(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	横浜市高速鉄道3号線の延伸に期待している。 (他同趣旨26件)	横浜市高速鉄道3号線(横浜市営地下鉄3号線)の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。	B
2	北口に地下鉄延伸に伴う地下街の建設をしてほしい。	現在のところ地下街を整備する計画はありません。なお、横浜市高速鉄道3号線(横浜市営地下鉄3号線)の駅位置については、新百合ヶ丘駅南口付近としており、横浜市と連携し、周辺環境や施工性などを考慮しながら決定していきます。	D
3	中間駅周辺(ヨネッティー王禅寺付近)におけるまちづくりについて、エリアの基本コンセプトでは、“路線バス等の円滑な駅アクセスを可能とする交通結節機能の強化等による川崎市北部地域の公共交通ネットワークの充実”とある。 ヨネッティー前交差点より北側の野川柿生線(路線番号3・5・14)は平成30年に計画の変更が決定されて以降、事業決定されていない状態であり、今回の当該駅周辺の交通結節機能の強化等を図る目的でも、当該都市計画道路の整備は重要になる。 今後まちづくり方針が策定された後には事業決定に向け前向きに検討すべきと考える。	横浜市高速鉄道3号線(横浜市営地下鉄3号線)の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。 合わせて、関連する都市計画道路等の基盤整備を含めたヨネッティー王禅寺付近などの中間駅周辺のまちづくりについては、人口減少や少子高齢化社会を踏まえ、交通結節機能の強化や身近な生活拠点の形成、地域資源の利活用によるまちの賑わいの創出などを基本的な方向性として、今後も地域住民等と意見交換しながら、具体的なまちづくりの検討を進めていきます。	B
4	あざみ野から新百合ヶ丘への鉄道は現在どの程度進んでいるのか。 移動に正確な手段の地下鉄の早期実現をお願いしたい。小田急多摩線方面へのアクセスを向上させ、より活力のあるまちづくりにしてほしい。 (他同趣旨1件)	横浜市高速鉄道3号線(横浜市営地下鉄3号線)の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。	B

7 横浜市高速鉄道3号線について(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
5	3号線の延伸に伴う地下通路の整備など、南北エリアを結ぶものもよろしくお願いしたい。	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。 駅南北を貫く都市軸を設定し、交通機能の適正な役割分担・整備等により、駅南北間の連携や中心部から後背地への連携（回遊性や交通処理機能）の充実に努めます。	B
6	横浜市高速鉄道3号線駅位置については、南口に出来るということを知っているが、まちづくりにおいて人の動線等を考慮するために早期に駅位置や出入口の位置を明らかにしてもらいたい。 (他同趣旨5件)	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。 駅位置については、新百合ヶ丘駅南口付近に計画しており、横浜市と連携し、周辺環境や施工性などを考慮しながら決定していきます。	B
7	横浜市高速鉄道3号線の延伸の推進と合わせて、積極的な情報発信を行ってほしい。 (他同趣旨3件)	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の延伸については、横浜市と連携し、ルート・駅位置等の具体化に向けた調査・設計の深度化とともに、国や関係機関と協議調整を行っているところです。本路線については、市民の関心が高い事業であり、3号線延伸を円滑に進める上では、地権者の皆様をはじめ、多くの市民の皆様の御理解と御協力が不可欠になりますので、今後の横浜市や国等との協議状況を踏まえ、適時適切な情報発信に努めていきます。	B

7 横浜市高速鉄道3号線について(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
8	新百合ヶ丘駅周辺まちづくり方針（案）の策定にあたり、横浜市高速鉄道3号線の延伸が非常に大きな影響を与えるので、開業時期を踏まえた方針とするべきである。 （他同趣旨1件）	本まちづくり方針（案）については、昭和49年の新百合ヶ丘駅開業・小田急多摩線の開通を契機に進展したまちづくりから約50年が経過し、当地区の抱える様々な課題が顕在化していることから、これら課題に対して的確に対応したまちづくりを進めることを目的として作成したところです。 横浜市高速鉄道3号線延伸については、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進しているところですが、延伸を見据えたまちづくりの方向性として、都市機能の更なる集積や、交通結節機能の強化に向けて取り組むことを掲げています。	D
9	地下鉄3号線は不要、税金の無駄、数千億円かけても出来上がったところには人がいない。40年前にやるべきだった。	横浜市高速鉄道3号線（横浜市営地下鉄3号線）の延伸については、広域的な鉄道ネットワークの形成とともに、北部地域の一層のアクセス性、利便性の向上や地域の活性化など、本市にとっても大きなメリットをもたらすもので大変意義のある事業であると認識しております。本路線は、市民の関心も高く、一日も早い開業が望まれていることから、引き続き、横浜市と連携し、早期の鉄道事業許可取得に向けた取組を推進します。	D

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
1	柿生駅前の再開発、まちづくりを進めてほしい。 (他同趣旨 3 件)	柿生駅周辺では、地元の権利者で構成される準備組合により、柿生駅前南地区の市街地再開発事業に向けた取組が進められています。本市としては、柿生駅周辺は道路などの都市基盤が脆弱であるなどの課題があると認識していますので、本再開発事業により地域課題である都市基盤の整備や防災力の向上に取り組むとともに、当地域が有する地域特性を生かしながら、まちの魅力が高められるよう、準備組合と連携しながら取組を進めていきます。	E
2	自治会活動の支援は、区役所の最重要課題であり、町会・自治会の自治機能の支援・活性化を優先すべきである。啓発や課題意識を前面に打ち出すのではなく、まず、地域住民との関係を築いてほしい。 (他同趣旨 2 件)	区役所については、身近な課題は身近なところで解決するという補完性の原則に基づく地域に密着した行政機関として、引き続き、窓口などの行政サービスの提供に加え、地域の実情に応じながら、市民同士のつながりやコミュニティづくりを通じて市民の主体的な取組を促し、一人でも多くの市民に自らが住む地域に関心を持ってもらい、市民同士が支え合いながら地域の課題解決に取り組む、地域住民主体のまちづくりを進める役割を果たしていきます。	E
3	虹ヶ丘周辺について、再開発や周遊バス等の住民の利便性を向上させるための取組を進めてほしい。 (他同趣旨 2 件)	虹ヶ丘周辺については、横浜市高速鉄道 3 号線延伸の機会を適切に捉え、虹ヶ丘に暮らす人々に加え、初めて訪れる多様な人々を出迎え、虹ヶ丘を好きになってもらうこと、さらに周辺エリアとの連携・波及効果による持続可能なまちの循環をめざすため、戦略的・機動的なまちづくりを段階的に進めることとしています。引き続き、3号線延伸の機会を適切に捉えつつ、地域住民やステークホルダーと意見交換を行うなど、連携を密に図りながら、各エリアの特性に応じた土地利用誘導などの検討を進めていきます。	E
4	王禅寺周辺について、魅力的なまちづくりや道路整備などの取組を進めてほしい。 (他同趣旨 2 件)	王禅寺周辺については、路線バス等の円滑な駅アクセスを可能とする交通結節機能の強化等による川崎市北部地域の公共交通ネットワークの充実とともに、周辺の住環境に配慮しながら、地域資源の活用によるにぎわいや交流の創出など、駅周辺の活性化に資するまちづくりを進めることとしています。引き続き、3号線延伸の機会を適切に捉えつつ、地域住民やステークホルダーと意見交換を行うなど、連携を密に図りながら、各エリアの特性に応じた土地利用誘導などの検討を進めていきます。	E

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
5	駅周辺の駐車場が高い。	民設民営の駐車場運営に関することは、本市の所管事務ではありませんが、駅周辺の道路や交通広場整備等による交通環境の改善などにより、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざしていきます。	E
6	Society5.0のサイバー空間やフィジカル空間における、輸出品目を増やす必要がある。	本市では、「川崎市総合計画」に掲げるまちづくりの基本目標である「力強い産業都市づくり」の実現に向けて、「かわさき産業振興プラン」に基づき産業振興施策を推進しているところです。本まちづくり方針は、具体的な産業施策について定めるものではありませんが、いただいた御意見については今後の取組の参考とさせていただきます。	E
7	二酸化炭素の排出権取引や二国間取引で、新しいキャッシュフローを作る必要がある。	排出量取引制度については、現在、国において、2050年カーボンニュートラルの実現と産業競争力強化・経済成長を共に達成していくことをめざす「成長志向型カーボンプライシング構想」の具体化に向けて検討を進めているところです。 本市といたしましても、こうした国による検討状況や社会情勢等を注視しながら、本市の地球温暖化対策推進に関する条例や関連する計画等に基づき、引き続き市民・事業者・行政が一体となった脱炭素化の推進に取り組んでいきます。	E
8	今後の投資に対する回収の確認が必要である。	本まちづくり方針については、これからのまちの将来像や実現に向けた取組の方向性等を定めることを目的としており、個別の開発等に係る計画内容の確認については、必要に応じて別途行っています。	E
9	リニアトンネル工事を麻生区でも行われているが、全く状況が分からない。付近住民向けに工事の状況説明や見学会を開いてほしい。	いただいた御意見については、鉄道事業者に伝えていきます。	E

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
10	新百合ヶ丘駅周辺は、交通量に比べて駅中心部の道路幅員が狭く都市基盤が脆弱な現況とのことだが、川崎市はこうした問題が至る所で引き起こされがちなため、新百合ヶ丘駅周辺だけでなく、川崎市内の駅周辺や主要道路の都市計画道路の幅員を全体的に大胆に広く見直してほしい。	都市計画道路は、道路の整備には長期の時間を要しますが、その一方で、社会情勢等の変化を踏まえ、道路としての必要性等を検証し、見直しの必要が生じた場合には、遅滞なく都市計画の変更手続きを行う必要があると認識しています。また、都市計画道路網は、概ね10年ごとに定期的に各未着手路線の必要性や機能代替性等の検証を実施しています。現在のところ拡幅等の見直しの計画はありませんが、関連事業の今後の動向等により、見直しを行う必要が生じた場合には、都市計画の変更手続きを行っていきます。	E
11	横浜市営地下鉄の延伸を機に、単に人を運ぶだけの車両ではなく、荷物を運ぶ機能を付加することで、人手不足の解消や収益向上をめざすべきである。また、駅で荷物を受け取れる場所を設置し、このサービスを利用する人には配送料を割り引く仕組みを導入する。	いただいた御意見については、横浜市高速鉄道3号線の事業主体である横浜市に伝えていきます。	E
12	早野聖地公園の地下部分を物流センターとして活用する可能性についても検討する。	早野聖地公園の地下部分の活用については、現在検討していません。	E
13	アルテリッカしんゆりを拡大して、麻生区外で開催される演目(能・狂言、または新たに歌舞伎など)も区内で開催してほしい。	市民団体、事業者、行政等が連携して「アルテリッカしんゆり」など、様々な芸術・文化イベントが開催されてきましたが、今後も、多様な主体が交流を深め、一層の連携のもと、芸術・文化を身近に感じる魅力あるまちづくりを推進していきます。	E

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
14	柿生へ来てもらうためのインフラ整備をして、新百合ヶ丘と連携していきたい。	柿生駅周辺については、広域拠点である新百合ヶ丘駅周辺地区との連携を図りながら、地域資源を生かし、市街地再開発事業等による土地の高度利用、交通結節機能の強化に向けた駅前広場の整備などを誘導・推進していくこととしています。柿生駅周辺に来訪する方が安全・安心に移動できるよう、市街地再開発事業等の契機を捉えた通行環境整備や駅周辺の回遊性強化等に取り組むとともに、新百合ヶ丘駅から柿生駅までを結ぶ幹線道路である世田谷町田線の整備等も着実に進めるなど、引き続き、柿生駅周辺と新百合ヶ丘駅周辺との連携が図れるよう取り組んでいきます。	E
15	新百合ヶ丘ばかりに交通などが集中してしまい、百合丘との連携をどのように考えているのかを知りたい。	本市都市計画に関する基本的な方針である川崎市都市計画マスタープラン全体構想においては、身近な駅周辺では、鉄道を主軸に沿線の拠点地区と都市機能を連携・分担し、地域の特性や課題に応じた生活利便性の向上をめざすこととしており、本まちづくり方針（案）では「広域拠点としての新百合ヶ丘駅周辺」として、新百合ヶ丘駅周辺において、人を呼び込むことができる個性と魅力にあふれた拠点形成をめざすことで、百合ヶ丘駅等の身近な駅周辺にも拠点整備による波及効果が広がるものと考えています。 引き続き、新百合ヶ丘駅周辺の具体的な土地利用誘導等の検討を進め、より波及効果の高い拠点形成に取り組んでいきます。	E
16	自治会活動を支援する拠点は、もっと地域に近いところにあるべきである。将来的には、市民館、図書館の分館として、地域の中学校区にひとつずつあることが望ましい。 (他同趣旨2件)	新たな社会教育施設を整備する計画はありませんが、市民館・図書館については、今後も各区に1館ずつ設置している市民館及び図書館並びに既設の分館等を軸にしながら、ICTを活用した新たなサービスの導入に向けた検討を進めるとともに、出張型の学級・講座等の開催による身近な場所での学びの場づくりの検討など、様々な手法を総合的に用いて、きめ細やかなサービスの提供を行うこととしています。	E
17	「図書返却ボックス」を新百合ヶ丘駅改札口あるいは、駅南側に設置することはできないか。	本市では、市内9か所に返却ボックスを設置しており、図書館から一定の距離がある場所に設置することで、図書館利用者の利便性の向上を図ることを目的としています。現在、麻生図書館の近隣である新百合ヶ丘駅周辺に設置する予定はありませんが、いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	E

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
18	川崎駅の海拔は2 m、市庁舎も2 m。さらに周辺は埋立地が多く、大地震発生時には液状化現象が起き、津波が来れば職員は市庁舎から各支援先に出れず、夜間・休日は逆に市庁舎に近寄れないと予想される。それに対して、新百合ヶ丘駅は67m。他の区役所よりも高地にある。故に、麻生区役所を市庁舎のバックアップ拠点として整備すべきである。	本庁舎は、商用電源が途絶した場合においても、耐震性の高い都市ガス（中圧ガス）を利用した非常用発電機及びコージェネレーションシステムによる自家発電で、本庁舎の最大使用電力の約90%をカバーする事が可能であるなど、業務継続機能の強化が図られていますが、地震、風水害のほか、火災等、様々な災害リスクを想定し、災害対策本部及び事務局が被災によりその機能を十分に果たせない場合は、多摩区総合庁舎内の多摩防災センターを代替施設として使用することとしています。	E
19	来る大災害により、川崎市役所本庁の機能が失われた際、どこかに川崎市の行政を担う機能を設けなくてはならない。 新百合ヶ丘はその立地からも十分その機能を果たすことが可能である。 川崎市のみならず、首都圏行政の代替機能の役目を果たすことも視野にいれるべきである。		E
20	新百合ヶ丘駅では帰宅困難者がどの程度発生する見込みなのか。 また、川崎市は駅ごとに帰宅困難者対策を行っているのか。 それとも主要駅において近隣駅も含めて帰宅困難者対策を進めているのか。	新百合ヶ丘駅の屋外滞留者は、2,532人を見込んでいます（川崎市地震被害想定調査（平成25年））。 また、川崎駅周辺・武蔵小杉駅周辺・溝口駅周辺では、帰宅困難者対策の計画を定めています。 危機管理本部・川崎区・幸区が合同で川崎駅周辺について、幸区は新川崎・鹿島田駅周辺について、中原区は武蔵小杉駅周辺について、高津区は溝口駅周辺について、宮前区は宮前平駅周辺について、多摩区は登戸駅周辺について、麻生区は新百合ヶ丘駅周辺について、それぞれ鉄道事業者や一時滞在施設と連携した訓練及び無線機の交信試験を行っています。	E

8 その他(45件)

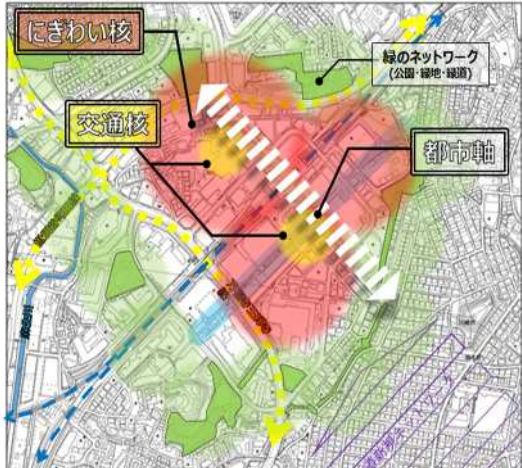
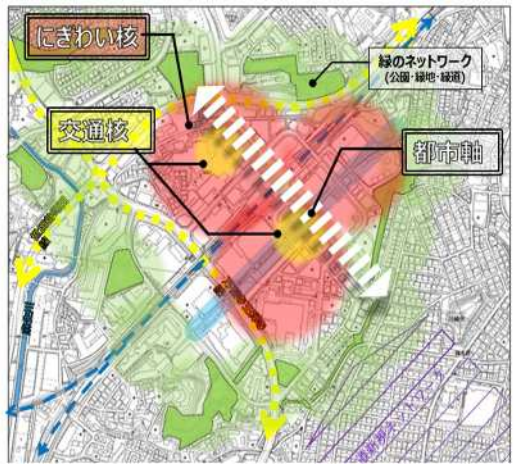
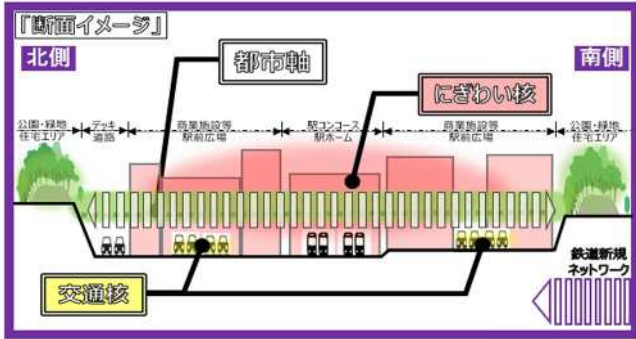
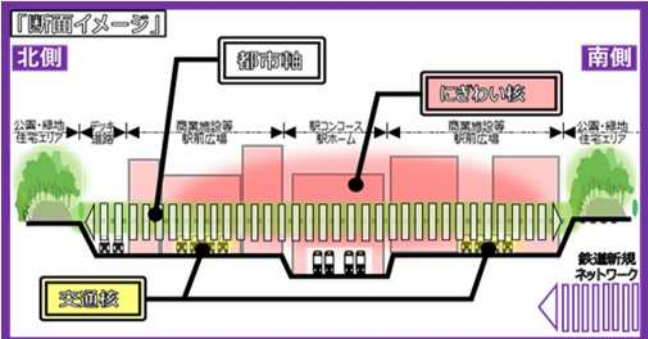
No.	意見の要旨	市の考え方	区分
21	黒川の計画道路もしっかり進めてほしい。	これまでも、駅周辺の交通渋滞の緩和に向けて、駅前広場の改良や交差点内の区画線の見直しなどに取り組んできましたが、引き続き、沿道の土地利用状況等も踏まえながら、関係部署と連携して、限られた道路空間の中で可能な対策を検討していきます。	E
22	交通渋滞。麻生区役所の先のセブンにバスベイを作ってほしい。		E
23	笹子農道から駅に向かう道路は駅地下でUターンし、麻生スポーツセンター前から駅に向かう道路も駅地下でUターンする立体構造にすれば小田急線駅のアクセス性が高まる。		E
24	笹子農道の歩道がものすごく狭い割に自動車の交通量が多く轢かれそうになる。歩行者も自転車も通るのに苦労しているので歩道幅を広く改善してほしい。		E
25	若葉台方面からの道路が整備されたため、新百合ヶ丘駅方向に向け「平尾中央通り」が昼夜を問わず恒常的に渋滞している。この渋滞を避けるため「麻生高校前」交差点を左折して「金程中学校東」信号2本先の道路へ右折で入って抜け道（笹子農道）として使う、更に最近「金程中学校東」交差点を右折して「万福寺さとやま公園」西側高台の狭い道路を抜け道として使う車両も多く現れ朝晩、雨の日を中心に裏道も渋滞するようになった。		E
26	アートセンターの向こうの千代ヶ丘の方の道路が狭い。		E
27	柿生～新百合ヶ丘のバス便を作ってほしい。	今後も、駅の特性や駅利用者数等を踏まえ、公共交通の利用促進や駅利用者が安全・安心・快適に移動できる地域交通環境の形成をめざしていきます。	E
28	交通インフラでは新百合ヶ丘駅までは色々と選択肢があるが、栗平やはるひ野方面には電車のみで、川崎市営バスは運行しておらず、同じ川崎市民でも恩恵を全く享受できていない。		E

8 その他(45件)

No.	意見の要旨	市の考え方	区分
29	自転車マナーを何とかしてほしい。	自転車のマナーアップ向上に向けて、関係団体等と連携して交通安全キャンペーン等を実施しています。また、警察と連携して小学生や幼稚園・保育園児を対象とした交通安全教室の実施、中高生を対象としたスケアードストレート方式（スタントマンによる事故の再現など、ヒヤッとする体験を通じて啓発を行う手法）による交通安全教室を実施しています。	E
30	五月台の駅があるところの法定速度が高すぎる。	いただいた御意見については、交通管理者に伝えていきます。	E
31	小田急線しか通っていないのが不便なため、登戸に引っ越した。	いただいた御意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。	E
32	いつか京王線とも乗り継ぎできるようにしてほしい。	現時点で計画はありません。	E
33	道路脇の植え込みの手入れが出来てない。 道路を自転車が行き、カーブ等がとても危険である。東京都並みに手入れをしてほしい。	街路樹の管理については、街路樹を健全に保ち、かつ街並みの景観向上など街路樹の機能を効果的に発揮させるために、引き続き、定期的な剪定や刈込、除草等に努めていきます。	E
34	私道が多いため、公道にすれば、さとやま公園の道と合わせて安全な歩行者道を作ることができる。私道を公道化してほしい。	本市では、私道の土地所有者から希望がある場合に、私道を公道に認定する基準等が満たされたときは、寄附を受け、公道とすることとしています。	E

5 案からの変更点

(1) パブリックコメントによる市民意見を踏まえた変更 (※下線は変更箇所)

変更の概要	変更内容【変更後】	【変更前】
まちづくり方針図における「にぎわいの核」に関する御意見を踏まえ、「Ⅲ 新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」、「4 まちづくりの方針図」の「方針図」中の一部表現を見直し	(本編 P21、概要版 P14) 	(本編 P21、概要版 P14) 
まちづくり方針図の「断面イメージ」に関する御意見を踏まえ、「Ⅲ 新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり方針」、「4 まちづくりの方針図」の「断面イメージ」中の一部表現を見直し	(本編 P21、概要版 P14) 	(本編 P21、概要版 P14) 

新百合ヶ丘駅周辺の現況における地域活動等に関する御意見を踏まえ、「Ⅱ 新百合ヶ丘駅周辺の現況」の「12 地域活動等」に市民館での【学び】に関する取組を追記	(本編 P12) <u>【学び】</u> ・ <u>市民館での取組</u> 市民館と市民の協働により、地域課題等の解決に向けた学習機会を通じた、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の取組（社会教育振興事業）や、誰もが気軽に訪れることができる憩いの場（サードプレイス）として「麻生市民館ひとのわプロジェクト」等が実施されています。（例：ミニ講座の開催 等） <u>（ひとのわプロジェクト「立体切り紙」）</u>	(記述なし)
--	--	---------------

(2) 関連する取組の進捗を踏まえた変更

変更の概要	変更内容【変更後】	【変更前】
令和7年1月に「令和6年度麻生区区民アンケート」の結果が公表されたことから、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する箇所を抜粋して、掲載	(本編 P2、54～56) 「令和6年度麻生区区民アンケート」の結果を本編の参考資料に、「参考3」として追加する。	(記述なし)

その他、用語・用字の修正など、所要の整備を行っています。